

類字名所和詩集

一伊行



續古今	續拾遺	新後撰	玉葉	續載	續後拾遺	風雅	新子載	新拾遺	新後拾遺	新古今
春一	春一	春一	春一	春一	春一	春一	春一	春一	春一	春一
春二	春二	春二	春二	春二	春二	春二	春二	春二	春二	春二
春三	春三	春三	春三	春三	春三	春三	春三	春三	春三	春三
春四	春四	春四	春四	春四	春四	春四	春四	春四	春四	春四
春五	春五	春五	春五	春五	春五	春五	春五	春五	春五	春五
春六	春六	春六	春六	春六	春六	春六	春六	春六	春六	春六
春七	春七	春七	春七	春七	春七	春七	春七	春七	春七	春七
春八	春八	春八	春八	春八	春八	春八	春八	春八	春八	春八
春九	春九	春九	春九	春九	春九	春九	春九	春九	春九	春九
春十	春十	春十	春十	春十	春十	春十	春十	春十	春十	春十
春十一	春十一	春十一	春十一	春十一	春十一	春十一	春十一	春十一	春十一	春十一
春十二	春十二	春十二	春十二	春十二	春十二	春十二	春十二	春十二	春十二	春十二
春十三	春十三	春十三	春十三	春十三	春十三	春十三	春十三	春十三	春十三	春十三
春十四	春十四	春十四	春十四	春十四	春十四	春十四	春十四	春十四	春十四	春十四
春十五	春十五	春十五	春十五	春十五	春十五	春十五	春十五	春十五	春十五	春十五
春十六	春十六	春十六	春十六	春十六	春十六	春十六	春十六	春十六	春十六	春十六
春十七	春十七	春十七	春十七	春十七	春十七	春十七	春十七	春十七	春十七	春十七
春十八	春十八	春十八	春十八	春十八	春十八	春十八	春十八	春十八	春十八	春十八
春十九	春十九	春十九	春十九	春十九	春十九	春十九	春十九	春十九	春十九	春十九
春二十	春二十	春二十	春二十	春二十	春二十	春二十	春二十	春二十	春二十	春二十



山城

畿内

大河

河内

和泉

攝津

伊賀

伊豫

志摩

尾張

参河

遠江

駿河

伊豆

甲斐

相模

武藏

安房

上総

下総

常陸

東山道

越前

加賀

能登

越中

越後

佐渡

越前

加賀

能登

越中

越後

佐渡

北陸道

信濃

上野

下野

若狹

越前

加賀

能登

越中

越後

淀

吉田

新玉津嶋

竹田

至河

至井

亂

志雄

東槻村

園韓村

綴岳

月輪

月林

並景

並池

鳴滝

猶小川

中河

梅津川

紫野

梅宮

内野

宇治

凡生山

宇多新室

浮田杜

井子

野宮

大肉山

大井河

大澤池

大直

大直

晴清水

大荒木杜

男山

鞍馬山

晴部山

皇林

久途都

栗栖小野

山科

款冬瀬

八瀬里

八幡

八瀬

真嶋

真雄山

松尾

船島

伏見

深草

衣子杜

木幡

小瀬崎

柏

木幡

嵐山

愛宕

百栖河

飛鳥井

縣井戸

縣宮

栗田山

秋山

朝日山

嵯峨

汗野沼

澤田川

鷺坂山

櫻井

清瀨

北野

貴布祿

衣笠景

清子流川

羨豆

清倉山

清輿景

清菟野

飛鳥

三室戸山

白河

堀電

水室山

櫃河橋

廣澤

平野

瀬見小川 芥河

炭竈

大和

伊勢 岩橋

石上

磐瀬

稻刈 磐余

泊瀬

羽買山

丹生 泊瀬

飛火

富緒河

十市 豊篤寺

彦門

小倉峯

忘水 春日

葛城

神南備

月峯 拍木杜

祇牆山

祇岳山

輕 蜻蛉小野

形小野

了園

金沙嶽 古野

彦田

了天山

珠城宮 辰市

了山

了松野

子向山 了城

袖振山

奈良

那良志 夏其川

七瀬淀

六田

宇治河山 宇陀野

大河邊

大鴻峯

大峯 掠橋山

久米路橋

山邊

山階寺 真野菟

益田池

了白

古河邊 藤原都

古柄小野

布留

越大野 巨勢野

天香久山

穴師

飛馬 朝魚

阿多大野

吾妻野

秋藤里 青嶺

赤膚山

在魚寺

佐保 猿澤池

佐野渡

無稻山

象山 象小川

了河邊

了概嵩

遊遊峯 雲清澤 湯原 三差

三輪 三玄 宮滝 水久山

涉船山 涉遠原 耳無山 見剛河

標野 望窟 廣瀬河 一言林

日晚野 檜原 檜隈河 菅直

菅原伏見里 菅田池

伊加久湯 交野 了瀬 竹河

玉田横野 了安 波嫩 樟葉家

天川 涉墓山 忍泉

和泉

泉山 横野地 玉横野 了師濱

具津濱 吹飯浦 信太杜

生田 板田橋 磐子杜 羽束山

及池 細江 堀江 富馮

遠里小野 布引滝 小墾宮 志水

輪田涉湯 龜井 神南備森 河馮

淀継橋 了師濱 太刀志江 玉川

了濱 了津 田菱馮 玉出水

津守 長柄 那古海

長例 武庫 浦初嶋 長舌浦

鳴尾 猪名 大江岸 湯前沖

草香山 侍兼山 真野 昆陽

扑津 有馬 阿久乃河 蘆屋

浅澤 浅香浦 葦間池 安倍鴻

葦浦 又丹山 佐比江 湊河

水無瀬 三鴻江 三津 湊山

湯系 箕面 三六女浦 敷津

廣田社 作鴻 住吉 取磨

須佐入江 伊勢鴻 一志浦 伊勢津

伊勢海 伊勢鴻 伊勢津

齋宮 又十鈴河 志文 于尋濱

小野 小堀井 志井 若松返

度會 神道山 鏡文 河口園

竹都 丹讀 長濱 湊川

湊江 大淀 生 烏呼浦

山田返 二見 朝熊 朝日宮

阿古木浦 碓氷 湯津波村

湯裳濯河 三度 注連宮

鈴鹿 志摩

伊良虞湯

尾張

喚續濱 鳴海

阿波子

熱田

冬河

八橋 二村山

宮路山

志賀須杏渡

遠江

引佐細江 濱名橋

百師山

名高浦

長濱 大浦

佐敷中山

白管湊

引馬野

駿河

磐城山 廬原

廬原

景造

田務浦 鳴澤

有考濱

浮嶋島

宇津山 富士

古奴見濱

木柘杜

安倍 清見

三穗

志豆栲山

駿河海

伊豆

伊豆海 伊豆湯山

走湯

奥小嶋

古く井杜

甲斐

小豆島 甲斐根

鶴郡

山梨島

指出磯 温山

相模

箱根 鎌倉

竹下

鶴野

八重山

小余綾後

足柄

武蔵

堀兼井

霞園

玉川

立野

武蔵野

向景

荒蒲崎

鞍山

三右野

安房

野崎

上総

里戸濱

下総

廬崎

飭飯

勝間田池

香取浦

真間

待乳山

巧取波宮

角田河

常陸

小野原牧

霞浦

鹿嶋

高島浦

筑波

筑麻伸

憲瀬河

櫻河

美奈乃河

滴杜

越江

石山

伊吹

孫子山

石戸山

板倉山

伊香具

石根山

不知火川

岩清水

走井

波母山

荒瀬川

湖海

二宮

新石野

常盤橋

鳥糞山

于松杜

于坂浦

于板村

竹生嶋	泉田島	音高山	小以敷
我之山	若松原	唐崎	鏡山
浦生野	餉山	堅田	法野
龜島	横河	余古浦	鷹尾山
子白山	玉緒山	玉野原	玉井
玉河	高嶋	谷上	高野村
菟摩	月出崎	七社	長嶋山
連庫山	長村山	長澤池	名取河
打出濱	宇孫野	野路藤島	野嶋
奥津嶋山	陪膳濱	大國里	大嵩
大宮	老曾杜	大倉山	暗部里

朽木山	栗本里	八十湊	野例
山井	真野	松崎	榎村
益原里	巳高見山	逢坂	近江海
近江宮	栗津	且妻	青柳村
朝日	梓山	樂之波都	坂田
栗増山	音人宮	万木杜	木綿園
三津濱	三上	水蓋島	三井
水尾	三村山	志賀	十禅師宮
聖真子宮	滋賀樂	白丹山	比良
以敷	日若	守山	諸神郷
園法島	園小河	磯多長橋	

義濃

因幡山

伊津貫川

志田小野

高井

席田

造神

宇留

野上

那木山

不破

義濃淨山

義濃中山

日守山

園藤河

死彈

佐山

信濃

大飼淨湯

筑摩河

姨捨山

風越峯

曾良

筑摩湯

七久里湯

久米路橋

伏屋

淺間

有明山

淺羽野

更級

木曾

切迫

涉村山

望月牧

菅荒野

上野

伊香保沼

石埴沼

村根河

可保取沼

横野

多胡八野

佐野

下野

玄八湯

黒髮山

二子山

安藤川

義香保湯

標茅迫

陸奥

磐子

憚園

十総橋

十府浦

予賀塩竈

小河橋

法絶橋

雄湯

小里崎 加鴻 玉河 武隈

玉造江 袖渡 壺碑 名取

奈古雲園 浮鴻 奧海 尾駸伊牧

奥井 朽木橋 忌塚 山井

松鴻 籬鴻 真野萱原 松葉浦鴻

狭布 衣園 衣河 夷

安積 會津山 阿武隈 安在

會瀬河 佐波古所湯 宮城 下養豆鴻

都鴻 信夫 樞甯浦 白川園

下細園 末松山

出羽 本會

袖浦 愈山 象河 取上河

岩狹

後瀬山 丹羽山

越前 日置

伊津波多 帰山 玉江 敷原

尖田野 有乳 福津山 鳥山

加賀 白山 藤原

狩道池 越白根

越中

伊波世野 多振浦 奈良 卯丸山

布勢海 二上山 越湖 越海

五後 三馮野

越後

越路浦 越山

丹波

磐坂山 生野

桂山 神田郡

大江山 玄田村

酒井村 日置里

丹後

梶嶋 懸湊

倉橋河 吹井

与謝

浦嶋

海橋立

足石山

于世山

被山

増井

藤坂山

長田村

神楽脩山

長田村

水江 水江右衛門

伊馬

入佐山 伊保町

出雲

後浦 袖師浦

石見

石見河 石見河

高間山 高角山

比礼振嶺 日晚山

隱岐

被嵩

妹山

高田山

浮奴池

小竹嶋

飯宇河

飯宇海

飯宇河

飯宇海

飯宇河

飯宇海

飯宇河

飯宇海

幡磨

京南野 揖保湊

辛荷鴻

吹古

高砂 高沼

津田細江

玄泊

野中清久 藤江

二見浦

明石

飭摩

長作

久米佐良山

脩前

唐琴泊

虫明迫門

大鴻

兒鴻

脩中

孫高山 剱岩窟山

稻井

石濟

二乃卿

細谷河

雄琴里

神鴻

高倉山 玉田野

長駕川

長尾村

長田山 黒上山

松石山

松井

松山 杖坂山

長脩中山

脩後

鞠浦

長門 玉利山

豊浦

阿武松石

紀伊

名鹿山

妹背山

今来里

岩代

磐田 妹實浦

磐子里

石間浦

發心門 才奈濱

音無

緒捨山

若浦 若松原

津嶋

津藏山

形見浦 玉津浦

高野

鷹浦

玉河 田中井戸

名子

那智

鳴滝 牟婁郡

浦初浦

熊野

侍乳山 吹上

藤代

古屋泊

阿由志 秋津野

飽多濱

佐那岳

紀伊海 由良

三穗窟

塩屋王子

檜隈宮

淡路

淡路

野嶋 大石嶋

松帆浦

淡路

浅野 繪山

阿波

阿波

鳴門 津神浦

阿波門

甲斐

讃岐

伯耆 松笠浦

松山

阿野河

阿比浦

伊豫

宇和郡

土佐

室戸

統前

生松直土山 船濟

傳多

奔推

于貢浦 竈門山

金澤湯

刈萱園

漆河 袖湊

漆河

思河

草多江 朝倉山

荒形沙形

佐屋形山

木丸敷 灰差杜

菱字浦

志加

白河 川津

肥前 至鴻

松浦

鏡林 至鴻

以礼振山

肥後

多岐礼滿 鼓滝

野坂浦

阿蘇社

水嶋

豊前

宇佐宮 倉無濱

企救濱

比古高根

門司園

豊後

笠緒鴻 木綿山

四極山

日向

速日峯 掃小戸

大隅

奈毛木杜 氣久杜

卷之不謹摩

真小鴻

壹波

海松目浦

對馬

安作治山

未勳國

石造山

床浦

忘水

至多里

入野

床海

狩府原

瀨山

入日恩

鳥屋野

懸瀨

至出岸

磐石浦

予田村

加佐之野山

眠杜

七瀨淀

真紫河

化野

阿羅布池

夕景山

三鴻江浦

忍系洞

宇苗川鴻

古江浦

安陪鴻山

雨宮

木綿糸河

志能麻

升磧山

船瀨棧

葦若浦

佐野野

羨豆小河

千瀉浦

矢野神山

衣浦

阿知方海

切府畠

三鴻浦

藻瀨浦

類字名所和歌集第一

廿一代集後書

伊行

石蔵

山野

山城

拾遺神樂

同

新勅撰賀

新後拾遺秋上

拾遺雜恋

同

同

後拾遺神撰

うあれたなきる麓山よりあふくをうらひきつてはとようはめ
不
知
人

きよなるるる麓山にみ代とてうあれたなくのをほまんとそを思
大
中
臣
能
宣

之引のる麓山に日のを草のしをや神乃思ことなるらん
權
中
納
言
頼
資

花傍たまきとまされとる麓のそのくわあよんまのくくら舞
民
部
の
為
若

稻荷

山社神庵

同

伊るる山社乃のすを人とつれを死人ををのいと昔へん
平
定
文

我とつへ伊るる山社乃のすを人とつれを死人ををのいと昔へん
松
原
長
能

伊のあふわてをほも稻荷山七日はあつてまじと思はん
淡
人
不
知

伊りわ山よりれ玉うた打くく我れをいよ神もこへよ
惠
慶
法
師

伊るる山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
中納言 実行

親の處分とゆへなく人みごとくれきるとあのみ

事しごとくつるをゆへと伊なりわることわて新しき

沈降れ夏は秋のうらふわりのひせしはきれ事

詞花雜下

永きものうらま事思へる一何秋らんうらま者ごと

伊るる山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる

同

あせりもせりもめれ月をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
淡人 不知

千載雜下

伊るる山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
僧都 有慶

續古今神祇

我らのむ人の孫のひを思ふまはるる一此るまと思へる
稻荷明 神祇

玉葉夏

いるる山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
源頼実

續千載神祇

稻荷山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
法皇 御製

川雜中

いるる山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
頼政

いるる山をよき事思ふまはるる一此るまと思へる

同神祇

やうらまをよき事思ふまはるる一此るまと思へる
前左 大臣

泉川

古今雜

泉川の水をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
淡人 不知

拾遺神樂

泉川の水をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
兼盛

千載

泉川の水をよき事思ふまはるる一此るまと思へる
石原 仲実

同哀傷

なれ事乃乃の思ひをよき事思ふまはるる一此るまと思へる
僧都 範玄

新古今下

時々のぬ浪の思ひをよき事思ふまはるる一此るまと思へる
定家

同恋一

みのれ思ひをよき事思ふまはるる一此るまと思へる
兼輔

玉葉夏

ぬけも夏はよき事思ふまはるる一此るまと思へる
俊成 女

同恋一

ほくそめす此神れなるとたの泉川朽まんとそそまの俊山 源家長

漢千載雜詩

新千載身 山と川をまわらるれば月がけりしと急をゆるくして鳴流る 後宇多院 不知

同秋上

泉川にほせ此流も志川のよそをまわつてこふすあつ月を 従二位行家

同雜上

泉川の川より人此後として入迹乃部を急げし老翁 源兼氏

同雜下

石清水 夏よりせま記ておらん石清水のこの心と及てしとそ也 増基 信厚

後拾遺神祇

石清水ふさつりてゆるり女の松の本乃中お後者 此松といひてゆるり此松お書付てゆるり也

同

金葉賀

お代へ下り世よりへし石清水まう系流と急にうそるそ 六条石大臣

千載新祇

石清水まう系流此後せ神そやれ月の人泣きうらみなり 能蓮法師

新勅撰賀

石清水の時のまつり 石清水の時のまつり 定家

續後撰神祇

石清水たのこころを皆久くせあもさむこころなり 前右近大将頼朝

續古今神祇

石清水をとりて月れをあそむりし神をみるむらじり 後鳥羽院

同

八幡のこころなり 米蓮院神石清水の條時乃祭をばしめてれたる 比貫之

同

續拾遺神祇

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
權中納言長方

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
大上

同

新後撰神祇

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
入道内大臣源道成

同

玉葉神祇

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
院世襲

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
平忠盛

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
淡人不知

同

續千載神祇

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
前大借正公什法皇

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
前中納言師重

同

爪推雜下

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
大江貞重

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
後伏見院

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
大上

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
源清氏

同

新拾遺神祇

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
等持院贈左大臣

同

石清水乃水乃くまらふしちとわりのひおまはまむむり那
伏見院

同 同

石清水神代の心より海へ渡りてや我の末をあためよき事ん
龍山院 性宗 光吉

同

石清水神代可れまうり

同

九重の橋りさしとせきよを又りとるし流り小丸雲の上人
後醍醐 醍醐

同

三代乃流し流をうきて石清水流流を時とたつつり小丸
前中納言 親光

新後拾遺神祇

石清水流し流れ流の建と我のりし乃きよもとむり
法印 幸清

同

たのむりれ我源のりし清水りれれすよと神よ理を
左大臣

同

石清水もあふむる清水こよりふ建のたけりともとも
恒助 法親王

同

よりゆきを神に理きて石清水すあふむを向ゆもきん
源氏 推源

新編古今賢

さみのためも深よりる清水ちとせれ取や通てみの原
左大臣

同神祇

石清水も川の清水流し流よりうきて濁らぬ代こよ三流連
保秀

同

天より神も云と石清水外よりわぬむのれと取りを
保秀

同

神代よりうきを澄れ石清水ちとせれ取をさむりりれ
僕人 不知

同

海よりぬきりむすよ石清水ちとせれ取もたつともきりれ
從三位 賴政

同

流れて流れもあふむる清水も地りひし末そ今も懸ぬ
入道 二品 親王 酒助 記行 頼

同

あふむる清水もあふむる清水もあふむる清水もあふむる清水も
記行 頼

詞花種上

石田 杜 小野 同

千載奉下

山ちらの石田乃杜乃いすともひ乃うらとてつせ月流
石原 捕尹

同秋下

稚子唱石田此をのけは雲をわらわらうらにけり
秋 季

新古今雜中

秋とりは石田の小野の流る可もまこまを流るまこま
寛盛 信仲

續後撰冬

山一り石田乃のけ流る見つやあふむる山ちらとゆらん
式部 宇合

後鳥羽院

より流る石田乃のけ流る見つやあふむる山ちらとゆらん
後鳥羽院

續古今冬

同雜上

續拾遺冬

新後醍醐秋上

同秋下

玉葉秋下

懷千載秋下

同冬

同冬二

新拾遺秋下

同冬五

後ら丸る田れ小野れ困る山ちりーくれてくくひくくも

中啓の親王

發してのをもとてみん鶴鳴る田乃小野る親来志なり

順徳院

冬きぬとけさきる田乃秋原をふたしくさふら町由り

正三位知家

後魚まけふゆー山ちろ乃る田れ小野る一唐を鳴らる

性宗忠景

初町由目毎ふまは山ちろれる田乃よりきま付ふらる

衣笠内大臣

町由する田乃小野れ後魚のさあくまつらうらゆ

匡房

うつりゆ秋の親来人こくつふる田れ小野のあまの境

若原為詞

後魚町由しきも邊終てる田乃小野る雪をかり唐

斎實法親王

くーのふつしたの小野れ秋りー常もあもがさめ秋を

權少信都正守

為町てきまおやゆられいりく乃小野るうらうりしれは

後九条即内大臣

しろうけくうらふえとつしを流れる田乃よりの下を

石原良甲

雉子鳴る田乃蕙咲ーより小野れ芝草分ぬ目をあー

為秀

秋原下系なるしき山ちろれる田の小野る信所くうの

若原隆信

齋院

同

齋院より

拾遺雜春

一かれ松れちとせも又一まふのきのえう思やうりく

源順

齋院より

金葉雜上

秋壺をふぬ波ふのし祿せなのまをのそ人くうめたり

若原惟規

皇太后の夜後乃いけまともあし給ひまう町へ

兼て鞠言やけううらうりまうよ祝をあのふふ

言成入ておれ連てゆりりる又紙よ書けまう

さう花おしく庭と目してのそを雪とやみけりる

撰建

詞花春

同秋

夜後のつひきとすきそ侍けり町木降れをいづる
るーあさゆめの花咲りしそ侍けりを懐ね
神りまふしとさふ葉もゆふくろきて白をあらうめや

供子内親王

同雜下

夜後れつひきとすきしり、町木向て後れ

千載賀

思へたいむとそあ事なぬうまこよ向て暮とのこまう鳴

選子内親王

同雜上

十の揺りひきのまこれのりを川にせともま、新を流へま
千子揺りひきのまこれ揺れまふひう葉の揺りひきれ

京極前大臣
実方

新古今夏

新院ふゆりりり、えれはらうして

忘れのやめひとまふひと揺ひりまはくへの家の暖

式子内親王

新勅撰神祇

ゆふとて、侍もふ新文人を世てよりれまぬ賢まそそを

謀子内親王
宣旨

新院ふゆりりり、上下畧

春を新院まのゆと揺れまぬ乃うりまらりてこーたり

京極前大臣
笑白太

夜後れつひきの揺れ、里う包りれらるうあたま

まそみまを花ありるまふかしゆりまねそ

れれ人もなきあちくの花乃とる春を忘れうりりり

女内親王
于女王

石川

同

新古今神祇

石河やまのの小川乃まよなれ、おも後を看てうと心

鴨長明

續古今賀

あつたを我世も流さる石河やせつれ小川乃流しと思て

鎌倉右大臣

新拾遺恋三

石川やめしぬ契や流しとま、新院の帯れ後里やとら

後鳥羽院下野

新千載恋三

石川や田代若乃、けやしてあまきまもねかぬ神水

鎌守
因冬

今宮

同

後拾遺神祇

白妙のこまそとらりりらて祝ひそ初敷紫乃野よ

菅原長能

同

今よわをりくゆふひまうまふふ乃部一不祓あためつ 同
あの新しをり人ま世中あしううらるれを舟
思のふま今ことりふ林をりしひてお海やあも林
馬まひりつとらん云はるうへる

志隠

同

玉葉雜四

志のふれ城哉芳ふかひてそれ夕暮のしらせしうれ

式部大
輔資業

伊駒

山 蕭 峯
尾上

大和

通河列

後拾遺夏

同旅

我宿れ接乃まよなりうしに伊駒の山うみしをなりり

能目
法師

新古今冬

わこのりくや大江のさうよ富うこしを井ふる伊駒山

良暹
法師

同恋五

あえちのやと山の甲や町あらし伊駒のきふ志れ然り

西行

同雜四

神やうす時ぬりりり林せ月伊駒の山ふしをけくも

源師賢

ひさしこれ志古ふかしういあ山春を凌れおこなり

後京極
攝政前
太政大臣

同尺歌

伊駒の山のふりとうそをりるうりゆげのう

は乃月久くもりねと思くともあまよなりそは志の

大僧正
行基

續後撰尺歌

天平は一年伊駒れ葉まそとりるまらゆもれ戒を

うらと初乃ややうゆ我う今文うう揚ま思ひう佛と紙るれ

大僧正
行基

同恋三

伊駒山炭ふお井れ白くりのをふれ中をまゆるるは

五原
行家

同旅

蘇波と漕せくまの林あゆる生駒のきふむらあひく

淡人
不知

續古今雜下

生駒山とふも鳴るれ仲よせくめあもあまの孝の雨くも

源家長

續拾遺雜歌

生駒山くもあをりてうはれ月のこりれを町ぬるるをせ

新後撰秋下

嵐吹いこまの山れくもをまて是計れううよすあるのり

権中納
言国信

同恋二

生駒山へはる路中の暮れくもなれとてしるむららん

為家

玉葉春上

包んでほろる處や必くともるらん生駒の山乃春ぬれむ

推延

同秋下

のりまふ生駒の丘をそあふまで芳立ぬ不致あまの甲

可奈詩
実俊

同

生駒山あ〜も杖杖又は吹雪の糸のよゆうら〜も

定家

續後拾遺春上

春風よいこまの山乃暮れれてへたてぬくもや揺る〜

法印
定与

同秋下

歌波〜漕ぎ〜これこれ降せぬ此昔を聚りて〜

後九条
前内大
臣

同冬

いかりまを山乃嵐し〜して生駒の〜あま電ゆらり

鎌倉右
大臣

新千載夏

町守伊こまの山や色や見るたけ〜く〜た外ふなくるを

光朋
寺入道
前修政
左大臣

新拾遺秋下

ぬれ上〜しるる月を色なり〜生駒山乃春うのゆ〜

為世

新後拾遺雜春

咲ぬよりみ〜〜まの生駒山今を〜川〜そみりぬの記

寂良
法師

同

歌波〜りみ〜〜まの生駒山今を〜川〜そみりぬの記

平貞秀

岩橋

同

後撰恋五

〜〜〜きやくめちみ波を岩橋の中〜ふても久あ〜

後人
不知

拾遺雜賀

岩橋北〜心の葵も後ぬ〜しぬれわひ〜さ〜まの林

春宮女
蔵人左
近

後拾遺恋五

中道に葛城山のふけ〜そ〜み〜事〜あ〜〜〜

相模

千載雜上

〜〜〜まや波〜も〜てぬ物あふ久米の岩橋あ〜

師頼

新古今恋五

葛城や久米あ〜わ〜〜〜忘〜乃終り〜中と成や〜

能宣

續後撰春下

〜ら〜花吹波〜春風〜と浪もみ〜ぬ〜れ〜

西園寺
八幡前
太政官
權中納
言資季

同恋四

葛城乃夜半の奥に伊を橋や〜してりよ〜ぬ〜ひ成〜

前大僧
正慈鎮

同恋五

〜我〜〜〜思ひ〜中〜〜〜して〜〜〜め〜

僧正
行藤

續古今恋一

〜〜〜〜命も〜〜忘〜れ〜〜〜〜

家隆

同恋二

葛城や波〜〜〜〜ぬ岩橋も〜乃〜

家隆

同

新後撰卷四

後千載卷四

續後拾遺卷二

同恋四

新千載卷五

新拾遺卷

同恋四

新後拾遺卷上

新讀古今卷二

古今類

同雜上

同雜上

同雜上

同雜上

後撰卷三

同雜三

同

拾遺春

同

同

同

同

つらきの秋乃契をきくこもあこふをきよくめ乃若橋

匡房

乞橋れらまらき秋のるってこしをきく悲のうお

法眼

葛城やく丸れ忠橋中としてりよふぬ人乃ちまらとそ

太政大

我中そくめの忠橋はをまお明のこをくうそるをおり

津守

とにりくお毒の乳て思へたそそ毒おかくめれ忠

後撰

泣ゆいとたのうとを舞りうて力も軍天乃を乃忠橋

源重

かふりもと終をやし白鳥れはそそありくくめ乃忠橋

後撰山

つし橋のさしお中と善誠乃赤井ぬ力そ程も得

源和

秋りよくのれ忠橋くても世後法果へま我力なも福

淡人

ゆの海をれ一のちまらよふ程うけつゆふめ乃忠橋

淡人

石上 寺

同

むらけ伊それりこさうて

石上ゆら赤部乃子規く急けりうらうらひうらるる

素性

日の忠やゆわのねる石上ありお中よ花も咲り

淡人の

石上ありゆきれ赤さひてくそ我をうら杯通

淡人

よむのさふもやなくあふよるにありゆ床も打拂

忠原

石上とりあさうまりてく日のきよれれ我のて

大臣

はりのぬりんとそあめあふり通昭ゆり

大臣

ましてとれりひみんとして伊はゆあれ

小野

志れ上お赤橋をすれをゆとそ毒の女と我よりさう

小野

世成るひく毒の衣を只へまらきうらうら二人

忠昭

春らんをさうらうみる石上めつしけなきお田るれ

忠見

後拾遺歌下

拾遺神祇

詞花春

同雜下

新古今春上

同雜下

後後撰雜中

續古今賀

玉葉歌下

續千載恋四

風雅三

みよりのもさうさよまゝるる上秋を可ぬれ海まきりし

の上ゆりや男れ下りのれくふれを志しく定地ゆらん

お花もあまれとみさやる上ありをけつきてやびじ

三笠山ありてまにけりる上ゆりまの草れあをて

の上ゆりゆ一人とあまはのまよるややうり葉つとゆり

の上ありま歌をきてまにけりりささくを笑りたり

の上ありはれまきてみくらよとまらうことごと

の上ゆりれを今みけりるここのあゝ又ふみ祿所

ひさびのまにけりるる上ありまよあゆりのゆれ月

ちりゆりせしはまにけりる上ありにしらひをまにけりる

の上ありりりりりりりりりりりりりりりりりりり

細乃可ぬあれもる上ありひいしとら山とそむらん

みよふまにけりりりりりりりりりりりりりりりり

白あれ起りしをまにけりる我をまにけりる伊るの上を

磐瀬 山社

同

後撰恋一

同恋六

金葉恋下

新古今恋二

新勅撰夏

同

同恋一

岩瀬山若の下ありりちのひ人乃みぬまを後述てそあり

五箇川立ちしをまにけりる世の杜れりりりりりり

きよふも岩瀬乃ちりれ下糸まみれおなを志ゆめ

ゆくとふとふとふとふとふとふとふとふとふとふと

林たひ乃岩瀬の杜の時鳥けりりりりりりりりりり

夕兼をまらわぬとり水乃りりりりりりりりりりり

ちりもられ岩瀬の杜れ雨はけりりりりりりりりりり

範永

淡人

不知

上東

門院

能回

法師

淡人

不知

法師

後鳥

羽院

藤鎮

文則

中勢

從二位

右範

困院

後人

不知

元方

源兼昌

後德大

寺左大

臣

田原

大皇

正三位

知家

俊成

續後群恋三

續古今以下

同恋一

續拾遺恋一

同

新後群恋一

續千載夏

同恋一

同

同

續後拾遺冬

吹風よまひよも志うし思ふし我よつしせれり此下恋
大伴 女娘

あきて座を鳴なり此下恋のさわりハる葉すうとも
鳥氏

此下恋の伴をぬ乃さりの初明あまのひくまを杖風う吹
順徳院

人三連を思ひとらうをりやう伊をせ此下恋の
刑部口 頼浦

をけいしうをても袖よひをれよ志ぬ此下恋の
管正 行意

成三を志ぬのさりの下草乃礼まてのさもをさうれ
土正 門院

事こひを思ひてや町をきふをいもせ此下恋の
法印 定為

ゆじこひむせふ思ひのつりとさふ澄み志ぬ此下恋の
為道 朝臣

此下恋の志ぬのさりのさるも神の町をさう人も
入道一 性親王

思ひのさるも志ぬ乃さる此下恋の
新陽明 門院共

此下恋の志ぬのさる此下恋の
信定 求左

みねさるも志ぬのさる此下恋の
後二 宗院

稻削

庵

同

續古今恋二

年と少涙をいふあふ華をたのめられ遊まされとも
原吳氏

磐余

他野

同

十市郡

世と伊これ乃此下恋のさるも志ぬ乃さる此下恋の
淡人 不知

伊これ此下恋のさるも志ぬ乃さる此下恋の
素直 臣師

疾の元治あり思せん鶴なくいふれ此下恋の
前内大 臣師

あさよるも磐余なる此下恋のさるも志ぬ乃さる此下恋の
淡人 不知

うき世と伊これ乃此下恋のさるも志ぬ乃さる此下恋の
二品法 親王

新拾遺秋上
新拾遺秋上
親王 淡人 不知

伊加く清

河内

傳後拾遺物名

梶小あさく波れ常を春がぬつてふえられたとあさく
我えく同よりきくそ細つれ伊つく満又そりらる

兼覽王
和泉
式部

新勅撰卷二

泉拙

和泉

新後撰雜中

文ふひく泉拙拙に立民のやむ時おなくさひつるおゆを

後久我
太政大

玉葉雜三

むる泉拙うまの文ふれ子引人可連をくらきてぬ世を

後久我
太政大
臣

世中そ泉の拙ふやう民とあきとあさくはひふれこあうん

生田

浦地 社 河 里 海

傍津

入道 別
大政大
臣

後撰卷一

同

つくるり生田の浦よまゆら波小我めをうらゆすむ

後久我
太政大

拾遺卷四

とふりゆれふひのらゆは生田れ浦れありとようみま

同

後拾遺卷三

はれ國の生田れれ乃つく度いつくま心を振にみとらん

同

ひとくま田れはふ懸連をきくまにふをさるるつとらん

同

詞花秋

あつてやを言をられつと津州のふそ生田れれとふそ

兼門

千載秋下

志を海いとをさうゆと津州乃生田のそわ乃は乃初う後

兼都
香胤

同卷二

濠川入れ海のそとみまこゆや生田れれくのそ小藤れれ

刑部
兼

新古今秋上

志保ぬちぬの益雄ひうなく小生田乃ゆふ力とや投ふし

五原
道經

後後撰秋上

ゆらふととんと思ひは明乃生田れれはれもきうたら

兼隆

傳古今冬

小宗られ生田乃そりれ初町るれりのらと回人もうれ

後鳥
羽院

同旅

思ひや連生田のそりれ初町るれりのらと回人もうれ

後鳥
羽院

同雜上

思ひや連生田のそりれ初町るれりのらと回人もうれ

後鳥
羽院

續拾遺秋下

はれに又うともあ津州乃ゆと田れりとの春のゆりの

順徳院

同

我をたり生田の杜の秋風ふとれぬも月やみうらん

衣臣
大臣

町る津生田の杜れるあしくとをまんそそや夕まきれれ

兼原
景經

同系四

新後集秋下

王華恋一

同雜一

續千載秋上

同雜上

續後拾遺秋上

同秋下

新拾遺夏

同恋二

新續古今秋下

同

同雜下

千載尺教

王華恋二

同

續後拾遺秋三

同雜上

新續古今秋二

同恋五

大つこ此言此葉もまりのいふ杖や生田れよりれろく家

津路れ生田れはる人をこて月みこしくおねのあふは

とくまてし生田乃海乃りひりほ沈び思くつとせみ成南

つ捨てくちりく田の時鳥まらるととびれ盡れトウを

津園の生田の社の初町ありとゆへゆへをぶ葉まらふし

杖まてもとられまをや津路の生田の社は兼乃ゆらえ

津園れつきたの奥乃りえゆは兼乃るふれくまられトを

ゆるゆ生田の社れ杖のまをともすうらふらよみえつりま

津園れつきたの社の時鳥をれれす海まらえうとをすし

とくれつりつきたのまられ初葉まらとてまらまらまらま

おねまら生田の盡れつと三やもあぬまらや初町ぬれ原

生田川水の林ゆへとくまらて木の葉とくくれ社れトを

ゆふ人も杖ゆまてうすれあれ生田の社れ書のとくれ

れれふの生田の川れあよを今とみられ布川の陰

板田橋

同

為大和田之由一説は王華集多の前書惟撰列と見仍常国載

朽果てあやうくみくれまの板田れ橋も今後す也

とくくれ板田橋のと縁志とまらふとても後れ志外

朽れまらつと田橋のゆへはまらふとゆへはゆへはゆへは

とくくれの板田橋乃と不遠はけとよりゆえとよま我せて

ゆりゆり伊多田乃橋も水越てあたよりゆへ道ゆふゆへ

とくくれ乃いた田の橋とと不れくをばらぬ中の候へり

朽れ板田橋もあふせよとゆへ中をゆへゆへすし

友原

中野つ

宗吉

王

年九

不知

推注

俊成女

家隆

左大臣

前大僧

正善賢

従二位

行家

源原

法橋

善信

法竹

二条院

人丸

賀茂

源兼氏

笑白前

太政大臣

續古今恋三 磐子杜 同 馬内侍

まうせあふと三きの津園のいとての杜と我ともうれ 馬内侍

續拾遺 甚一 りーゆくと言葉とふらふあもやあのと懸の杜ト同 太上天皇

同 かくとふ伊とて乃盡れ風ふそよりおひ言葉より 正三位 為実

同 思ふおいとての杜の糸とく思れあ乃ありれととと 津守 国基

同 思ひしひび一よらう一さし人よいとてのよりれとめ縄 前中納言 為方

古今恋二 伊勢海 伊勢

同 いせれ海ふつりてん登れうもるれやび一と定しひけり 伊人 不知

同 同恋三 いせの海に登りうを縄打もへてうら一とれとや思後同

同 同恋四 伊勢れ登おふかたのくくふ思目お人成あく由りれ 同

同 同恋五 伊勢れ海れうら一が貝のらひのめ 同

同 同恋三 いせれ海にうてもあふれく縄れ長むを我うささけり 伊人 不知

同 同恋四 筑摩山のせぢのあまの控衣搦られたりと人やみるらん こまの 朝臣

同 同恋五 いせの海は端控のたの衣衣ひくとさすれとあしぬえり 躬祖

同 同恋一 伊勢海ふ控ふ望を成り一の波うまかてみるめあひり 伊勢

同 同恋二 眺け乃登やえりつゝ伊勢海れ波さす浦しを我みるめ 伊勢

同 いせれ登と恙とる里と回くし恙しを種よみるめおとよ 伊人 不知

同 同恋一 伊勢海のまはすてのく眼うとささくつよあれ方とそ恨れ 朝臣 藤原朝臣

同 同恋四 伊勢海れ釣のうまなるさ海られと深き心を意よ沈めり 朝臣 藤原朝臣

同 同恋二 伊勢海ふ年をて短し望をせうら思るめを引のさうと 伊勢

同 同恋一 あらよといせ乃候れよわおて妹をうらにみけり 藤原朝臣

同 同恋二 端高れいせれ望や我なるんらうこみるめを新由りれ 横大納言 今国

同雑上

つしとろを方よりあは伊勢海の瀬をよよりあまの釣舟
言俊忠

同恋三

瀬乃行くいせゆれ登れ神たすむりく原をよとよ
前茶誦
教長

千載雑中

つふきんいせれ演れ死にて出る残れ波小栲
源房重

新古今集

祓田いせの演我るにぬせて栲祢やす思のよ子残へ不
不知

同

つくよつし月をよと栲さそ波のたすくいせ乃演れさ
越前

同

あさり八十瀬乃波を分てしてさ栲を伊勢乃演れさ
且秋門
院卅後

新勅撰恋四

ゆきを伊勢れも満れさ分りしをまりのよひ波より
匡房

同雑四

伊勢の登の給ま又なはのりてふ鮫乃貝れ片思ひして
不知

同

伊勢海れ沖は白波たゆもつてふ妹のつへつとよ
安女土

續後撰春上

伊勢乃海れあすの月なる物成をよ栲やく煙をそみる
土
院

懷古今林

伊勢れ海れ登れをてふ巨貝にれりりよもさ波ゆを
不知

同恋一

栲祢すも伊勢乃演我るなりつてすも栲すも栲れけり
鎌倉右
大臣

同恋二

いせれ海の波まふくを栲れをれ打も人よま波れ
不知

同恋五

伊勢海のゆめなをゆりひりゆ演よひろよ神の白玉
前大納
言基良

同雑下

伊勢海の登乃も瀬本らるうつてむり恨み年うたむり
衣笠前
内大臣

續拾遺春上

さうすやも伊勢れ演れさ風吹を打断しとよま波れとま
正三位
教季

同恋一

伊勢の海乃綱れも縄我方よむものぬ人より三行
前中納
言推言

新後撰恋五

心よまゆくひらるへまいせれまも人を栲ぬ神うたれ
家隆

同雑四

我忘そいせゆれ登のうつてゆをみるめ計を奏るれと
高階
宗成

同雑四

ゆれ前にゆく意果れいせの海とよま栲と思ひける
出羽弁

同卷一

石のあまの海らんいせれ海もくろしほをわくくそ思ふ

同卷五

いせれ海れ雲乃うを端うを舞ふ小舟を又と沈めたりれ

同尺教

伊勢の海乃清しほをゆりもるを我を留まる水みき道

徳千載秋下

いせれ海やゆせし海ありしを晴て月あそくく林れ浦波

同神哉

いせれ海や今もそ思れ舟み道あれ波のうを包とそまら

同卷二

いせれ海の望れ藻端火燃えれままなりとも海よりつ

慶後拾遺卷下

いせれ下の憲れ神乃りけて春の夜も端されより

同貫

いせの海乃清しほを恒端れちとせの舟を悉くさうりせん

同卷一

伊勢の海の望れ藻端まらうりりりやあくぬ煙を

同卷四

海にゆく伊勢の望の信よりみるのふけて涼なるらん

風雅卷三

伊勢海流よりひろふたすくも袖下は日さし思ふ

新十載身

我に流ありいん伊勢れ雲れ舟れくもひく人しかたれ

同秋上

伊勢の海や及れくはくもむ月れ新し清しほやらん

同冬

伊勢の望れひろまらぬやれ新しゆ下れ清し電ある也

同恋一

いせの海れあられくも端浮るれを思とれ小舟も知人りれ

同恋三

伊勢海乃望れくもくも我方よりひの舟をくれよ

同恋五

伊勢の海のお満端乃つづれくも川を流るるを思ふ

新拾遺卷一

伊勢れ海の端をよるひく流るる舟を思ふ

新後拾遺卷夏

伊勢れ望れ端を夜あつて種やをいともんりあれれ

新後拾遺卷春上

いせの海乃清しほをゆりもるを我を留まる水みき道

同卷一

玉も新いせれ望れ神より人をもりめりり

大宰大

言指録

五原

院

善光寺

如来

権大納言

法眼

皇太后

兵部

津守

黒主

鳥家

前太政大臣

伏見院

學

津守

左近中

持等

前大僧

正源惠

入道

太政大

道政

法師

三冬院

女藏人

左近

寂蓮

法師

同正二

夕うつしいせわの巻の焼燼よみくめおれし

津守 国夏

同

いせ凡の乃の燼燼を流してふあぬみるのを乳てその

前左兵 正 兼 敦

同恋四

伊勢海の舟れうを絶絶ゆれとまこ流やうぬ巻の燼燼火

洞院 兼 敦 大臣

伊勢海

同

千載恋四

いせ海や一し此浦の巻たふもろつぬ神をわめて

道目 法明

新古今 雜中

あふくもや残形指らんいせ海や一し此浦の巻たし女子

俊成

後 後 雜 中

いせ海や望乃燈火たあつちもみぬ人あふめとつて

清浦

同 雜 中

いせ海や燼ひもまを袖ゆれて生れひなきまふも

後 京 陸 兼 敦 前 大臣 兼 敦

同 旅

いせ海やまは月の新うしてまふひくこまちりり

基政

同 雜 上

いせ海やまは月の新うしてまふひくこまちりり

法印 兼 敦 前 大臣 兼 敦

同 雜 上

いせ海やまは月の新うしてまふひくこまちりり

法印 兼 敦 前 大臣 兼 敦

新 後 拾 遺 卷

いせ海やまは月の新うしてまふひくこまちりり

法印 兼 敦 前 大臣 兼 敦

新 後 拾 遺 卷

いせ海やまは月の新うしてまふひくこまちりり

法印 兼 敦 前 大臣 兼 敦

千 載 恋 四

いせ海や一し此浦の巻たふもろつぬ神をわめて

道目 法明

新古今神中

きふくや残る揚らんいせ鴻や一此浦北登れしよこ

俊成

新勅撰雜四

停弓いち志の浦んまれ月のすれみくましく心も引るる

家長朝臣

玉葉冬

清き清き所和文のいせ鴻やいち志れうみ十号鳴也

鎌倉右大臣

新拾遺冬

玉もつ心一志乃あすれわれ文ゆふ日もきく電如ふるる

法眼源兼

伊勢神

同

新古今神祇

社風や玉こりれもとをりー肉か乃まふ志をうりれ

俊惠

續拾遺神祇

社風やうりくのみまのまけーら十度やありの代ふ立へふ

衣笠内大臣

新後撰神祇

社こてやつ乃るゆとあるんけうし志をそめる同凡五人

荒木田加成

玉葉神祇

玉照そ月の光を社りまや川ちめあまのうりともあー

大神宮

慶十載神祇

いせ乃海や今も天照社風よるうれ故のうへへとままら

未眼源兼

同

我國みうらとのまとのうりて得ししほを今守れらん

は皇

度神祇

のころきの子本を同外お整れをらりひーも同伊勢社壇

度會

新後拾遺神祇

せのためおたてー内外のま極さ社らの山とうこー

後九条前内大臣

太社まよまうてけり時十枝れ社をーかこゆあれ

新慶古今神祇

世風守れ社乃るーも今も社志まるら豊たの社乃下院

勝定院贈太政大臣

齋宮

同

都方門院伊勢おむらう海ーまる町六条心大臣

此小方のらさ海うーくこそて得けるくえんひ

うのぬ澄此おのりのりうーまろくたれし

金葉雜二

社壇乃のころととふお甲おなを思ひもけぬ鐘乃お外

六条右大臣北

み十鈴河

同

あを久しうあしわらひをの川の橋縁を

匡房

新古今賀

同神祇

神國やいと河波敷——すまむくまの代ふ又後里ら心

春宮権大夫公

同

やけくくれそふ余乳乳るれや伊まく河魚乃杖のよの月

藤山

同

神國や伊すく此川此支根のいそく川美代をまうん末うしれりき

俊成

同

又十銘川うくやまこまの杖此声志たの志根杖此杖夕因

大中臣 明親

後後撰神祇

又極たさう岩根のいそく川美代をまうん末うしれりき

俊成

同

川の末の終すも處うこいそく河魚小舟のめして清よ心を

太上 大皇

同

伊まく河神代の終りけとめて今もくりぬ杖のよの月

為家

後古今作祇

神國をいそくの川此いそく杖ふとそむの夜の言そ長宗ま

皇太后 官大夫 師繼

後拾遺神祇

徳んてつく代よるをぬ神國やいそく乃川此支根に

大蔵口 有家

同

濁なき代の有りれのいそく川ゆもるうし支根のり

荒木田 延成 二松云

新後撰神祇

神も忘れ月をむよのいそく川はうまき清さ夜のじや

親正 寛助

あさりののむきの代ふ杖た建て支右右なる伊す河上

大中臣 定忠

後千載神祇

又十銘河さしぬ後れうこまこま神はううす後根月け

伏見院

同

澄月乃けをううしていそく河魚ぬよもくくぬれ

兼助 法親王

同

いそく川をさるる神代まてむうううふよくの月け

法印 寂信

後後拾遺神祇

神國や伊すく川なと支根——てつく美代り志の守らん

權中納言 師時

爪雅神祇

うそみも又支根のいそく川流のすゑを神のまふく

太上 天皇

同

澄月もつくせせうぬいそく川とそむの故乃清子後ふ

荒木田 氏之

新十載神祇

ありも流るめとくもさういそく河はきまふし杖新るふ

後人 千和

新後拾遺神祇

はそく川せの志ぬけ後くもうし支根代に杖新るふ

荒木田 理直

新後古今神祇

いそく川志たの志根の水うま乃久き世より支根すじも

前中納言 言与忠

伊良虞

志摩

千載雜上

續後撰卷二

續後拾遺夏

瓜推雜上

千載戀四

玉藻のぶつらうの海乃志孫松つく代と小り年此をゆん俊理大

弘康のつらあいの誓も我ししやうくまなくして神をのりて有性

望代のぶつらあいの海のりの里をれるうらも粟ぬみ祝匡房

因返のつらうの海れうるれ松下枝をたれを咳うらり八返二 覚助

川佐細江 遠江

逢事そのれあ細江のみに流り流るまじもけさかへり若原 清輔

磐城山 駿河

新千載雜下

新撰古今版

同雜上

おのぬ力も涙れこがれくやつしきの山此東城り安嘉門 院四条

のふのび磐城の山を城通て人もこぬえれ流よゆをり定家

ひなき人もこけくや時きりしきの山音くなくらん淡人 不知

廬息 同

新千載雜二

新拾遺卷三

續後撰雜中

同雜

又玉葉雜二

同賀

海母のつらあいの海乃志孫松つく代と小り年此をゆん前中納言有光

廬崎 同

たのりそもぬえれ流の沖は海行いなく海乃松よ吹らん能譽 法所

いづれれぬえの流れうらぬ貝もよ運きて世をゆん俊成

伊豆海 伊豆

おのぬ力も涙れこがれくやつしきの山此東城り鎌倉右大臣

伊豆海 同

千の流細豆乃れ山此松八百美代もつら流りりし同

廬崎 下総

新勅撰版

まらら山夕報りていお海れ角田りりし小独りもり并基 法師

石山

石山の雲のうへへし 傳はるるさきさき ありては付りし

拾遺雜春

うらめめこつと 敗らん山嶽あまひひをり 嶽にまゝのきて

新古今雜上

都人も人も 傳らん石山に 敗らん乃こまる 秋乃の月

長原

新勅撰夏

石山まで 曉日くくく 乃なくときて

長原

雲と波と 山乃のりや 海よりらん 的れもあゝぬ 朔の空

續古今哀傷

女乃思ひ 小傳りり 乃ある 石山まで

權大納言 行成

新拾遺雜上

石川此方の まは雨と 玉と物連と 外よりと 行くまの 此月

長原孝標女

伊吹

峯山 嵩

同

坂田郡

又濃列不破郡

新古今戀一

ゆくこたえも やり伊吹乃 乃も草こも 志しおもあつ 思を

長原

同恋二

乃も又 用や伊吹乃 ばも草ゆく 我のこも ともや 返らん

和泉

新勅撰恋二

逢和を 川と伊吹此 奉おせらる ことも 後をぬ 思るつと たり

中宮大

續後撰秋下

ふとせに も昔そ 年ゆふり ありま 山杖を 草木乃 及びお 伝く

法師

懷古今冬

今ゆりく 野を 成おたり せは 成りあ きのか 山言 海ゆ

秀祿

同恋四

つふさ 山を 成茶此 じも じょう 忘れ とき 契並 一の

中務の

新拾遺夏

あしを 草あし とも 原る 草みり 乃伊吹 此嶽の 根や ぬ 原

衣笠内大臣

新後拾遺恋四

うても 程も やも けふ きの 下 草此 根を 記お 思を 草ゆ

大納言 通具

伊吹

同

備中同名あり

近江のりいやはら山乃御してありの代にその初よりくじ

兼盛

寛平四年大嘗會總祀方近江國已日樂破

王業賀

をうけて照る月日れあえらげささそのあかひ跡さ乃山

前中納言 經元

石戸山

同

後古今神祇

ゆの思とりる戸れ山の棟とさとしてそ初る美代のため

民部口 經元

新形神賀

林代より初る戸とのまじりる戸れ山の棟とそやる

前中納言 兼光

後千載神祇

ひさびさの戸れる戸の山りもれとこやと鳴てせの月影

前大納言 俊光

板倉山

同

今上大嘗會總祀方近江國は近江此國りこやれ

大嘗會 中納言

山田は稲とわ海くのりまはあまのいれと人思より

大嘗會 中納言

たりまのりあつりよめり

板倉の山田は此の稲とて納まれ此代の種をまけれ

左京入天 於浦

伊香具

同

のひんてーぬさるあのみ海よりもぬーやんをさふむ

前右近大將領 躬恒

るに乃とさけをうひはー近江成もあのみとく逢とてー

躬恒

石根山

同

壬仁元年大嘗會總祀方近江國石根山

石根山や海りいよよれれをそみ初をよらううれー

前中納言 匡房

新千載賀

不知津河

同

なりーるそ人乃心をさや川りさ我つららひつらふとも

今上 内侍

後古今延三

同延五

らりそふお拵とあのみ川のさや川よりさひ終るん

中務卿 親王

後拾遺延五

まゆへれとあのみ山りるもつしりさや拵ぬひくもみと

家隆

新古今恋一

りらしと思心もつぬせらふせりけく愛るなりゆき

賀茂
久世

同恋二

元よみれを返して伊原や又のふせもーぬとあの山川

安赤門
院甲斐

漢十載冬

い原や川今や氷をーまゝるれとあの山原をくふくなり

平時元

續後拾遺恋二

奥ま心の末をい原や川つきたのまねぬせくれーのりこ

從二位
官子

新十載恋二

れーよまれさうのところ乃山い原やまねぬ奥まとも

源五徑

岩清水

同

古今恋一

逆坂代冥不流行く岩清水いこてびうかりひさうすれ

淡人
不知

同雜林

冬代ふあふ坂山此岩清水て即く連なると思ひりつりれ

忠峯

新勅撰依

別けりりをもぬらぬ岩清水逆坂の山を名のさかりけく

松原
親睦

同恋二

あふ坂の冥の冥守じの連や岩原乃清水けをけふみん

權大納
言降季

同

まご越ぬあふ坂の山の名清水結ぶぬ神をまがと抱くこ

殷富門
院大輔

續後拾遺恋三

あふ坂乃のけやのみこじ岩清水又のあふ坂代冥を越くも

信生
法心

新拾遺恋三

あふ坂代冥のこけの岩清水返してあふちきりこもりれ

民部
為明

因幡

山峯

羨濃

八雲四抄并純兼抄當同云
清補マ礼目幡因云

古今雜別

よおしれもの山此春ふせれまうーさうりも今坂つらじ

在原
行平

新古今恋

三つこつとあはけさ中くまいもの山乃春此杖は

定家

續拾遺冬

結とさー因乃結ふ縁をてく伊原も乃山此所も我白鳥

五原
隆博

同雜上

つひなりや因幡乃山此まうーも又坂あんるけりゆ

高氏

新後撰夏

るま控て伊まの山此み秋程まらまらとーいん

權中納
言理平

同別

い原い小坂あんせつうれをいまの山のまう人い

祖立
法師

玉葉冬

雪乃中不冬る伊あまの成代松原中もみらぬえだあま

順徳院

新十載別

約人まうやーさうのまうと伊てよ独伊あまの足跡の苗子

伏見院

新撰古今秋下

同冬

同別

同雜上

昔の生れ松やも今やうらうらと伊予の國の又重の
るまゝ一松を伊予の山風うら松のこゆる冬をささる
伊予の山と松を別れぬりぬりんがくもさうつとほのめよ
いまもとていゝこの山れ藤ささるこのひとさるれ

多々良持世朝臣源家長朝臣權中納言推尋法眼昭

金葉質

伊津野河

同

續後拾遺

新千載

新撰古今

同

ついでをくみ代早うさぬきつ川ぬまほれ松れ毛衣
席田れ伊津野川みつうらうらと高れ月とさうく物うるれ
遠田れつ川ぬま川のしき波ふじれ井れ鶴のかげ乃くま
席田れつ川ぬま川の川水とささるつとつ建久さ
ふみ乃ささるつ川ぬま河れしき波み松ささるつ代のおり

源原道輝大納言成道後京極撰政前太政大臣松院惟明親王

岩田小野

同

新撰古今

續後拾遺

拾遺物名

犬飼沙湯

信濃

今もささるつ川ぬま河れしき波み松ささるつ代のおり
岩田れつ川ぬま川の川水とささるつとつ建久さ
ふみ乃ささるつ川ぬま河れしき波み松ささるつ代のおり

伊家正三位知家家隆

拾遺恋四

伊香保

上野

ついでをくみ代早うさぬきつ川ぬまほれ松れ毛衣

同

新撰古今

ついでをくみ代早うさぬきつ川ぬまほれ松れ毛衣

順徳院

拾遺恋一

石塩沼

同

ついでをくみ代早うさぬきつ川ぬまほれ松れ毛衣

人丸

後拾遺

ついでをくみ代早うさぬきつ川ぬまほれ松れ毛衣

小弁

千載恋五

山の名は遠路のうきなまし 伝きし人ちお祈り流るん 俊成

新勅撰夏

くく水と名は遠路のやのち長記たのし 小今日や引取 入道前太政大臣

徳古今恋一

行く山の名は遠路のいふ人ち恋しうし 人此ゆりさむ 直照法師

同賀

たつ乃井る名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 春宮大夫 師頼

新編拾遺雜春

阿都し名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 源經氏

新編古今恋一

こても名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 後鳥羽院

磐子 山

陸奥

千載恋一

思へて名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 左京大夫 孫輔

同

へと名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 昭

新古今推下

陸奥のいふ人ち恋しうし 人此ゆりさむ 前右大臣 師頼朝

新勅撰雜四

つと名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 淡人 不知

同恋一

くらひのいふ人ち恋しうし 人此ゆりさむ 皇太后宮内侍

續千載

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 津守 国助

同恋一

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 前内大臣 通

續後拾遺別

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 大納言 師氏

伊津波多

越前

後撰別

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 淡人 不知

新古今別

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 伊勢

續後拾遺秋上

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 家隆

伊波世野

越中

婦員郡

あふ名は遠路のあやち 恋とてひうし 恋りたあふん 家持

新拾遺別

新編古今冬

いしせ地ふ鳥踏立てり
あつこおの夢と
あふまうるぬ日
し

按察使
元朝

磐坂山

丹波

大甞舎寮

後百今賀

志坂れ山の志梅のう
あはなく
えをり
まをん
あはせ
非

匡房

しと野 里

同

金葉雜上

新古今賀

大江山づくはく道の
をさる
いさ
こも
もみ
とあ
れ
橋
立
内
侍

小式部
内侍

新勅撰秋下

大江山越てゆく
あは
東を
こる
つれ
せ
あ
も
つ
ひ
あ
あ
れ
非

刑部
非

後古今賀

大江山くれう
あ
ま
え
麻の
孫を
生
野
越
て
ま
と
こ
ふ
ら
ん

権中納
言実守

後拾遺冬

寺ぬ
う
わ
我
り
り
さ
は
よ
あ
れ
ら
ん
生
野
の
末
に
逢
人
は
あ
れ

西園寺
入道前
太政
正親
院
大夫

後千載後

あ
う
あ
お
生
野
れ
道
乃
末
ま
て
ま
つ
と
あ
み
ん
夫
れ
り
互

中納言
宗子
大夫

新拾遺春

あ
れ
生
野
れ
す
ま
の
も
て
も
り
月
と
あ
ら
の
あ
は
せ
ら
ん

前大納
言公護

新後拾遺夏

大江山う
し
り
末
も
あ
お
生
野
れ
あ
ら
ん
一
つ
あ
ら
ん

箋詮

新編古今春上

あ
ま
え
ま
え
り
に
つ
と
大
江
山
越
て
生
野
れ
道
も
り
ま
て

前茶詩
忠定

同夏

あ
ま
え
ま
え
の
道
り
く
る
と
種
ま
り
一
つ
あ
ら
ん
春
れ
ま
れ

信実

同夏五

あ
ま
え
ま
え
の
つ
つ
あ
ら
ん
山
時
あ
み
こ
ら
ん
あ
ら
ん

源家法

入佐山

比馬

後撰秋下

梓弓伊
れ
山
の
山
を
扶
き
り
の
あ
ら
ん
と
や
あ
ま
え
ら
ん

原宗千
朝臣

金葉春

あ
い
さ
ゆ
と
春
の
氣
ま
は
成
に
り
り
入
ら
の
山
は
遠
た
な
ひ
く

太宰大
貳長
実

同夏上

あ
は
れ
て
あ
ひ
入
ら
の
山
乃
も
り
あ
ら
ん
月
日
乃
あ
ら
ん
あ
ら
ん

大中臣
公長

千載夏

あ
ら
ん
入
ら
の
山
乃
あ
ら
ん
あ
ら
ん
あ
ら
ん
あ
ら
ん
あ
ら
ん

權大納
言宗家

新古今春下

春深、あへまの山乃をうゝかのこゝのまのまう浦まる

権中納言公經

同夏

町馬ちてへまの山此くぬゆへふりまうううさりぬ

前太政大臣

新勅撰冬

父附世いろあゆの山の言振よりをうゝやくに初町ありあ

源兼昌

新多撰夏

夕月言かやりの松をきえりて入あゆの山よほほとす

法性寺入道前大臣

王業尺数

独のまらみ孫いれあゆの山此とすこと乃ををひあそやふ

民部卿

新十載夏

梓弓入あゆの山此ややみにけりりきれせともしとす

後中院前太政大臣

伊津師宮

同

新拾遺物名

似馬師伊のまを詠うてあゆのまうくそ草と

子あゆのまのま此此此人あそやうりさうする

重之

石見沼

石見

つられとへまいさるる見沼あゆのまひりしり

淡人不知

拾遺卷五

新勅撰卷一

不見沼あゆのまつらううもぬりてうあふてもみより

同

同卷二

不見沼あゆのまあゆのまあゆのまあゆのまあゆのま

同

同卷三

つらみ沼人の心を思ふあもまらぬまこれ此まははは

人道明太政大臣

懐拾遺卷五

不見沼あゆのまあゆのまあゆのまあゆのまあゆのま

眞照法師

新後撰卷五

つらみ沼神乃をぬまて不見沼あゆのまあゆのまあゆのま

若原為親

續十載卷五

不見沼あゆのまあゆのまあゆのまあゆのまあゆのま

津守因助

新多撰卷上

つらみ沼あゆのまあゆのまあゆのまあゆのまあゆのま

定家

つらみ沼あゆのまあゆのまあゆのまあゆのまあゆのま

後鳥羽院

石見川

同

新勅撰卷四

つらみ沼あゆのまあゆのまあゆのまあゆのまあゆのま

淡人不知

妹山

同

拾遺哀傷

ふせおゆりてなく成ゆ人さ討おのそみて

抄本
人丸

中南

野海

幡磨

後撰 卷六

指人川為原を中南をよめしそのころうりうりさりてん

後人
不知

拾遺別

如る我お高り者いふこのいぢやりの世をささめや

能宣

同物名

後古今雜中

王業集

いほと妙やゆりときく見はさしれたよまう松松の村互

土内
門院

新後拾遺冬

ふみさき中南北海の仲は故ちうまゆくまぬ大如鳴初を

人歴

同旅

氷るそとみしゆりくまぬいほとのく世中の氷と埋白高

原義持
朝臣

何ふおのこみ入をゆりんいほとく浅つり上り高海まり

為定

楫保湊

同

ふさうふ縁さめてさげをりる海浮伊りの湊に千島ゆや

大江
赤言

孫さ山

倫中

近江有同名

金葉冬

大嘗会立基方倫中園孫さ山とよめる

書くれをいやさ山の孫よままこと冬りうり花咲りりり

在原
行盛

窟山

同

千載神祇

うあはなくちうとうゆるいさや山を林この久慈をして

在原
延衡

新勅撰賀

ゆり縁玉松うそのあたまもつこの山のう勤ゆれへま

權中法
言頼資

稻井

同

宗祇因分 勅撰各所抄
藻塩草木常因云々

金葉賀

白代のあをいお井お但ちを良やしけなりちる白代り那

高僧
明頼

石碕

同

藤原土著因云々

徳後新賀

末をきみ代乃のけいよう久えれまこあを井へ名場乃松

前中納
言理光

金葉春

志康山

紀伊

在田部 八雲抄勅撰名所抄藻鑑草茅萬田哉之

ゆゝの山くは人さなき夕暮ふ心くもよこあし

前齊院尾張

妹背山

古今恋五

流ていもせの山れ中ふあれお路れ川のうやうの中

不知

後撰秋下

同雜上

志とよれ妹せ乃山もはくれをえうりかむ物日そまひつ

同

拾遺神樂

ひはりーれ妹せ乃山れ中れあへ痛けりおれ鳴すあれ亦

同

同雜中

は海あびちすくまに妹れ依れりー妹せれ山を慰う嶽子

八尾

金葉秋

ひはりーを妹せの山と心あしや初秋寄れ互をふりら

不知

新勅撰

妹せ山氣れあ〜やきりらん衣る〜ひをう〜なくるつ

公突

續後撰

はみより霞わたるる縁る〜りみま〜とあぬ妹せ山れ

中納言目信

同戀一

つゝてゆふ候れ来やまきれらん妹勢の山れ中乃流川流

土院

同戀二

乃のけ〜ん剛激も心を妹流川乃〜と互をま心ら乃〜して

糸詩莖

續拾遺恋五

すゝ縁ぬり〜野れ川れ水上や妹勢れ山の中をけりら

建統

王業

行り流れお野の川や〜と勢山つ〜うの中流けりら

正三位知家

同戀一

中ふりお掃乃川をあせか〜ん妹勢れ山を絶てみるへ

考詩莖

同戀二

妹勢山流〜ふみしてやみぬへ〜る勢乃川を隔とそ〜ふ

いりう

同戀三

妹勢川を〜れ中を〜人の抱き〜れ〜りハカ〜し〜し

尚子

同戀四

我涙〜り〜や〜る勢乃川とふ連妹せれ山れ〜けや〜られと

津守

同戀五

涙〜く〜も〜る勢ふ見勢うお野〜り〜つ〜とせれ山れ中〜れ水

行家

同戀六

いもせ山中なる川れ〜と氷をけて〜う伊〜く〜神を〜れ〜ら

推中納言

同戀七

いもせ山中なる川れ〜と氷をけて〜う伊〜く〜神を〜れ〜ら

言公雄

いもせ山後らぬ中乃る燈ほたるたあえれ三のちらぬる

行念法師

同

結ひとく誓りと深し妹せ山中りり河井遊ハ〜

前巻談

同卷四

いもせ山福る誓の夕町あたりうさ中れみ〜

板原基世

同哀傷

妹原川りぬらぬ水のけらもき〜

清輔

新拾遺卷一

妹せ山中なる遊の言れのみさ〜

為友

新後拾遺卷上

春とつ〜や〜く霞の中みあは妹せの川も氷〜

撰政大臣

新後古今春下

いと〜らふ心乃る〜妹せ山中なる川れや海あきの〜

若原推求

同卷一

つ川りり妹せ乃中より〜ひて若せれ遊を神小並原

後小松院

同卷三

こぬよ〜の候り〜我中〜後〜妹せの山と〜

成光

同卷四

伊もせ山思ふぬ中より火乃り〜

民部口資宣

同卷五

〜り〜人乃り〜いもせ乃山れ福〜

按察使資明

今来

山峯世

同

傳古今長壽

建置よ〜れて今東若小綱の傍けり〜

夜明

王業夏

今さ〜り〜と山れ〜

夜明

〜が〜の〜ら〜ま〜く〜

夜明

志城

野社 尾上

同

拾遺雜下

〜の事をも〜志代の結ひ松千年と〜

夜明

同卷二

〜で〜し〜法〜ひ〜初〜り〜ん〜

夜明

同卷四

〜ら〜ろ〜の〜中〜み〜た〜て〜る〜

夜明

後拾遺卷四

〜代乃〜ら〜りの〜り〜〜

夜明

同卷四

〜代乃〜ら〜上〜れ〜因〜よ〜年〜

夜明

金葉

〜代れ〜結〜る〜松〜も〜ゆ〜

夜明

同恋上

かくとふまゝ志代の法松むりしれすのわのむりぬ 源朝長

同近下

①とくも思ふをいも②志代乃ちりにれを後わの候りぬ 源朝房

新古今接

の束をいふくくもこの志代れ思の蓋振りし松むりぬ 式子内親王

同神祇

志代の神をちくくらし思ふをよむむりぬ 後人不知

新勅撰卷二

やうかとも程志代れむらひ松むりぬ物取人さうり思 此補

後後撰神祇

とくも又のひも思ふ松むりぬ 前太政大臣

續古今雜中

志代れあふ事も月も我身あふ何と世まよひしり 前中納言資実

續拾遺卷二

我のそりさけぬうし思を石乃世くゆも思と志代乃松 前笑白左大臣

新後撰卷二

いの神れまれくもあふや志代れ下草あふりく 一条大藏隆博

玉葉雜五

後みくともあふりす程志代れこ松りうれを又みけり 人丸

同神祇

志代れ松み契とひをい並て美世まてれ丸く思とそ待 後白河院

新古今卷三

いしりあふ思れ蓋振を結もを思を思の思くさうり 行能

同雜中

法ひまき契うつふくも角も人をも今そり 登蓮法師

新拾遺卷二

と小角小心もとけぬをのうさのたのうつ 正二位隆教

新古今卷二

思へを思う志代のひまひ松り 祖月法師

同

夏来れみくとも思ひ 雅經

同神祇

志代れがくれ月つを志代れ 三位兼宗

同

ひまひとく契と老の束なぬ又 和氣種成

續拾遺卷一

伊の川流れびのゆり 花山院

磐田

川岸

同

玉葉雜一

松り 西行

續十載

ありぬをゆき 鳥家

同神祇

新千載神祇

思心致神もつらんり志田川わさるれりせくれ白波権大借部公順

妹交過

八雲山抄并勅撰名所抄
藤堀早等當国云々

権僧正
良翰

新勅撰冬

向きこよの文のそりしり過秋身のうらまらくり鳴る鎌倉右大臣

同旅

夜まらく愛あもかした妹り過何をしここの浦くまらん正三位
知宗

同雜四

康州舟沖漕くりし妹の過のここれ浦よたのりまらみぬ後人
不知

渡古今雜中

るのれをみあし妹りし過のこ此れ浦より月う浦行る太上天皇

續十載雜上

心もつけう程浦のけり妹の過のこ此れ浦より月う浦行る若原
忠能

新渡古今雜上

妹り過しここれ浦乃らと千を面敷うるそ妻やこふり後人
不知

磐石里

同
八雲山抄并宗祇国分勅撰名所抄
藤堀早等當国哉之又奥列有同名

漢人
不知

新勅撰春下

みぬ人よつこのとこしんいなりこれいとそ乃里山吹けぬ漢人
不知

新渡古今春下

世の事とつふせりつらり世より磐石の里と名をぬらん後二
条院

磯間浦

同
八雲山抄并宗祇国分
藤堀早等當国云々

渡拾遺卷二

くふりつみらふ汁も志入くきよ残まの浦れま乃康城火行能

玉葉冬

冬乃よりのゆを忍りみまの残まの浦より子もなく也鎌倉
国冬

新渡拾遺卷二

棒り残まれ浦お引あまのめふりひるるめしぬとひりま定家

新渡古今春二

うふ中をひしれりせ妹過やつうまの浦れはれちるゆふ入道贈
一石親
王守田

生松魚

筑前

拾遺

ひうけうの生の松魚とくくく忌連ぬ人のありとこふよ橋倚平

同雜賀

きふまてそ生れ松原せたまと我力けうさふ款てそゆり五原後
生女

後拾遺別

新渡古今春をりけうら夜波よけまの松こそ思やうれれ若原
為正

同

らひくくの世とつらみさやみん末の松より生乃松を

同雜五

の巻と伴きの松忍つさふりあつらとせよあをんとすは

金葉巻上 又續古今卷三

詞花別

と別もれうふりさの松は忍うつあつらとせよあをんとすは

千載別

るみーしん松一松くしてせはうとく松伊きの松り

新古今別

涼一而も伊きのまうあまももそふ松舞乃の松を

同尺教

とびるあつらつらつらいさの松まうらひ松とむ松

新勅撰

立別をうー伊きのまう種うちとせとむ松むらせん

續後撰恋一

とつらむ松一松い松げさ松伊きの松一松うひ松ら

續古今別

と松の松りふ松ら松れを新てうの伊きのまう月

續後拾遺別

河一うぬ松まれも松まよる松り一松い松の松京

同

同雜中

の末ふいきの松忍りうとせしけに念をうけてまう

石邊山

未勅

の末ふいきの松忍りうとせしけに念をうけてまう

同卷三

の末ふいきの松忍りうとせしけに念をうけてまう

入野

同

の末ふいきの松忍りうとせしけに念をうけてまう

千載春下

新古今秋上

續古今秋上

の末ふいきの松忍りうとせしけに念をうけてまう

相模

源重之

五原

權僧正

求婦

實方

批把皇

大后宮

左京大

夫前捕

待賢門

院堀川

武高遠

法印

定考

後松

周防

因侍

大僧正

道順

大隆

鎌倉右

大臣

源敦国

八尾

素達

傳作

順德院

同雜秋

夕ゆれをまかこ余のあを康此いれはれ是神うあけき

源義行

新修撰改上

為人のいれはれをくまかみせく袖のりすそふ杖同うぬく

菅盛井

玉葉秋

月れは伊れはれをく記のくくと山れえまでぬれ志はめ

入道前

新後撰改一

人三連と思伊れはれをくきれ初も是神の所也りれ

中原

續後拾遺秋上

淫たぬのち抱れさしあを志うの八野のすさかよはまり

後成

同

夕月秋初涼しくかくゆすいれはれ志うし今也鳴らん

孔季

風雅接

つゆさゆこ伊れはれの葉乃流るれも物の人此神をあけき

同

同恋一

あわれと若みしう立祿所を志うのへのあけけはま初と

鴨三明

新拾遺秋下

月れは伊れはれをくき打りひま暖つゆすうあうう鳴らん

左其書

同冬

物人此伊るは葉のあわれはれはれあれの鳥やあくれりゆん

權大納言忠基

新後拾遺秋上

かよりの淫ちまうくも秋きては伊れはれをくま初ゆう吹

宗多

同冬

入日岳

同

價古今冬

けり登乃くくのちの原のうとくんで入日の曇は雜子鳴也

口院

玉葉秋下

時ぬゆの程しりも程又あはれうゆる八日乃曇れ初葉も

權大納言冬基

磐石浦

同

價古今冬二

町さるは伊れはれはれ浦ははさみんれたりはこみ書冊り也

右道中持經家

松山社 山城

後撰雜四

後拾遺秋下

詞花雜下

新古今秋下

同

玉葉冬

總千載夏傷

續後拾遺夏傷

同

新千載雜中

松山昔れ風の風とつこ見ゆるここのをを書うつひり 貞之

つらぬぬ同じ時ぬよ寝あすの松社社のうすくううら 堀川左大臣

本下ふりまあつたけく言を松社の社の明こ見くきみ 源茂 目書

松急常もつらやうしれら来えり乃トま杖かけう 撰政太 政大臣

町わぬぬぬくつらう 定家

らり松社松の松糸うまをぬくとつとそらふ社乃下 從二位 隆持

とつわて町雨もさう 賀茂 遠久

巨れおよ松の社をりまぬくも下 權大僧 正神助

つれよりの松社松の松糸 原 景

うけ 權僧正 亦歸

花山

同

古今歌下

ふれいしそ

ふそよみ、故うん人小敷のえりひまろふれよ枝をわす

僧正
編昭

人れ花山よりまうてまてゆめさうりけつと故うん

とまれとまによめる

同別

夕き乃芭き山とみなりびうをを越すと宿るとみ人れ 同

花山よてる俗園尺う人きるむらうり

後撰中

山守もつしつしむしき砂の瓦止乃まうれとてりあくむ

素性
法師

花山よりまうのまてゆめりつよあかひまの馬とけ

のけりちるれい

拾遺雜上

望月れ物よりそくおつれそ凡やうくう山の越り

同

同類書

まてと伊らとまて覚し花山ふまうとありの馬れまもけ

僧正
編昭

花山より海りつとまりつと僧正遍昭の家れ波の

揺らりまるとみて

便古今哀傷

うれしうれまをりふあう様花れま乃春やらひしふ

律寺
国基

花山乃波をゆり雪乃りつふとゆりるの芝里とそみる

定家

花山よりて卯月朔日れ卯前のお敷をれなまきる

とまて

新渡古今夏

鳴やふあ山赤まふまて物さひしつ人れまきり

長原
長能

羽束師杜

同

後撰下二

まうれてつ小歌れまゆりやまをまうりこれ社と云ふ

淡人
不知

金葉雜上

家れ海ゆりぬ物ゆ人まうりこれ社の言葉あじとてけり

有原
孫輔

續拾遺恋一

ゆしても神やふくまぬぬをたもるるのたれ常を 佐成

伯瀬川 山岑尾上 檜原 大和

ソをうて梅と

古今春上

人もつさむもうもをるてをたうひりのうふひひり 貫之

同雑林

後撰雜三

伯瀬川右河のふ二かま松年やるて又もまみん二かま松 不知

同旅

若京や伏見にくれよをわささくをよなりし小伯瀬乃山 同

伯瀬川はたせりくや駕らし世よはゆるしに我力をせ思へハ 同

十月つらよるをうらたつるにゆりけりに岐きり乃 左をるを懐けり

後拾遺旅

の道に聚れえもみるべきを尋とせよやううまをふふ 公任

金葉春

伯世山を升るる花乃咲ぬまにその川はたつりともみる 匡房

千載春上

同恋二

夕暮小橋をみしを初瀬川のつらあむの鐘乃響るのーて 兼昌

同雑中

新古今 春下

と初瀬に花ハ咲とみりてをい恋ふなりふれハーを 太宰大

同夏

つらとる人を初瀬の山ト目よそりーのれとを初ぬゆを 俊成

同冬

ゆりしを杖やぬきて初瀬川ゆか川のりこれ故乃ささうけ 有家

同旅

ふけり初瀬に川に故折もやくもやーのくれみきうや 後徳八

同恋一

初瀬山又越へまて者と人を三橋にひりし初結ゆふく 寺左八

新勅撰春下

年もあぬ初瀬を伯世山をよれしこれよあゆみくれ 臣性

同雜二

花をうれ恋の恋にしつらひてまよふけをう初乃や後 定家

後京授 撰政前 太政官 入道二 道勅

瘦後聖秋中

泊瀬山遙修ふり下もろくもれてきみの月のるより隠跡

後鳥羽院下野

同

あも里江此松乃こくもを替符と泊瀬の山を又付まらるる

土佐門内大臣

同冬

くもろくこすも又付初瀬山町多やのえ乃錦とれりし

入道前大臣

同冬

泊瀬のれ白ゆふ花をりりもあす氷みせけり山川これ水

後京極大臣

同冬

契さまきこもとまらる瀬川ゆる河の人のあさりと此松

太政大臣

同難上

泊瀬川流氷おれ融とまらぬくこす波の着うりやけき

寂蓮

同冬

泊瀬山は春乃まきの花うつろをりへけりて白ふり霞

為家

同

春風よりあつまぬ花やゆらりし花まうこれ小泊瀬乃山

宜秋門院

同秋下

こまりに此泊瀬の山を又付ぬ町雨れ雨を降にけり

坂上即女

同冬

小初世や春のそ花を吹さるる風おくも此言れ山りと

定家

同秋下

泊瀬山は春乃まきの花うつろをりへけりて白ふり霞

家隆

新後聖春下

泊瀬川流乃水沫の流りてみまのくもれくせこれ白まき

常盤井入道前大臣

同秋上

詠まはるや花白雲のやまら乃泊瀬の山をぬ白ふりし

同

同秋下

暮もろく伏見れこれの杖風より月澄けられ小初をの山

前中納言有房

同恋下

泊瀬川ゆるあす波れ着うりもらやう小瀬の秋乃よの月

光俊

王業春上

初瀬川又みんとさうたのツのこふもつろし二花れ松

俊成

同

花のれや露れ梅より泊瀬山もつりこみふら若れまらる

家隆

同春下

伊まらるや花咲ゆる初瀬山の山を又付ぬ山を又付ぬ

入道前大臣

同

泊瀬山を上げ花を霞くまてやまよひくくへあむのこも

権僧正

同秋下

篠咲高根より霞や波れらしくもまらるく小泊瀬れや海

寺入道

同冬

泊瀬山ひりゆる花を霞くまてやまよひくくへあむのこも

太政大臣

同冬

初瀬山を上げ花を霞くまてやまよひくくへあむのこも

太政大臣

同冬

初瀬山を上げ花を霞くまてやまよひくくへあむのこも

太政大臣

同秋上

伏の夕はまゝこもり江の初勢山行をりては家も並居

同冬

ゆらまゝし小橋原のりてこもり江に泊瀬の山を雪積り

同雜上

初瀬山ひりし小舟を初こもりを尋のされし子う文の

同雜中

こもり江の初瀬のひはふ吹かて流にまはる入るむの鐘

新千載卷上

いすむたのやを流にこもり江に泊瀬のせは春れ梅の香

同

こもり江に初瀬に梅咲しりりりては花のちりち

同秋下

初瀬山暮ゆくもや旁よりき弓楸り下りて康れ鳴らん

新拾遺卷上

春せりて泊瀬のひりて流めくもあつるり小舟ゆり山風

同

いりりひのせと流り埋まてまゝ入りて小初せれ山

同春下

小初せや流みぬり小流の夕を伏せれきも流りりびらん

同

春れ夜を明け鐘のひりて流り花みりすめり小泊せの山

同

泊瀬山の上乃花を初てり入るひの鐘り春るまぬらん

同秋上

初せ山の上乃花を初てり入るひの鐘り春るまぬらん

同冬

三播山を町あゆりて流初れ泊瀬のひりて流りりりり

同

初瀬川并てり流のそりておてりてせくの志しりり

同春一

初とよ初瀬れひりり時ぬちも春も深ぬまをみんとま

同春四

泊瀬川むすし水流乃を力せり流初るを流ししとそと

同

初瀬川又逢みんとたのりてりりりりりりりりりりり

新後拾遺卷下

小初瀬れ流のりりりりりりりりりりりりりりりりり

同秋下

初瀬山明なりりりりりりりりりりりりりりりりりり

同春春

初せ山流のあつるを初てりりりりりりりりりりりりり

同春秋

泊瀬山毛上の芳の流りりりりりりりりりりりりりりり

同春秋

泊瀬山毛上の芳の流りりりりりりりりりりりりりりり

家隆

為定

前大納言 言者氏

為定

六条内大臣 等持院

藤原利 春院前 美白内 大臣

前大納言 言者氏

藤原 親王

後鳥羽院

忠房 親王

入道二 山

正三位 降教

阿 法師

行 法師

法 師

中 國 道 前 太 政 大 臣

原 清 捕

民 部 官 資 宣

源 詮 政

右 大 弁 秀 長

同

新古今集下

同

同秋下

同雜上

同雜下

同

續後撰冬

續後拾遺春上

新千載反

新古今集下

伯瀬山春乃ひりりも埋て暮れ志こかりつるもあむのこ子 菅原 上人

伯瀬山花より春風あそきてくさけきこすけり 後京授 撰政前 大政令

鳴りりのまゆくうと 鳥塚北 初瀬乃山乃白ぬ乃

條浦を括もあ 初せ山りつるひ乃こひよまむう時ぬれ 前中納言 推挙

初せ山月よさひ 子鐘れををひけくみ送れよをれはぬ 荒木田 出羽

きうて只り 西とらふれ日も伯瀬れさ乃へ送れ鐘 権大納言 通守

汽小い世もあ 初せ山り初め言ゆもれと泳うぬめを 拍秀房

羽買山

同

ひり 終ぬあむれさうひの山り初也五原 前内大臣 家良

け 初せ山を初めきとふむの原よ雜子唱る 菟原 隆信

夏子涼く 初せ山乃まらの下り後 天目左大臣

水島れ初 ひの山の春乃まふ独きうらぬ岩所く 順徳帝

羽栗山

傍津

新古今集

秋果れ 山れきひまに 匡房

原池

同

八葉原抄并勅撰各抄 藻塩草木書国入之

ひ 池る春と 菟原 孝善

む 池水 菟原 信実

濱名橋

遠江

拾遺別

後拾遺集

金葉冬

詞花雜下

ひ 橋と名 兼盛

手路乃 大江山 廣礎

白ぬ乃 前斎院 尾張

け 太皇太后 官肥後

新功共非山

同

慶後供後

同

同雜下

慶後拾遺格

慶後拾遺格

風雅狀下

新設拾遺格

澄波入さもさうー白あのも海のそー乃はれはあは

ささくし流るれけしとせきみよ下ゆ水おれやとまると

お願流りのけしとささくしして流るけしとささくしして

たうー山々都くれてせきりり流りの橋を月よるるれ

流るれ橋をささくししてささくしして

立海もよ湊のまりのゆきさうー松原みしてけう浦まる

ゆき流るあとりさうーと流るささくししてささくしして

打波をささくしして橋の明りのみささくしして

ゆき流るささくしして海をささくしして

走湯 伊豆

ゆき流る湯れ山おまうてささくしして

伊豆乃湯山乃南ささくし湯のささくし

新根 相模

ゆき流る新根れ山おまうてささくしして

新根れ山おまうてささくしして

走井 近江

走井の程をささくしして

走井の程をささくしして

走井れ水をささくしして

波母山 同

波母山をささくしして

菅原

光俊

源人

不延

前内大

政村

朝臣

中務口

宗室

下

前右近

大持

朝

大江

藤秀

澤守

国道

鎌倉右

大臣

橋俊細

清原

元補

堀川太

政大臣

前大納

言公護

日吉地

を権

の

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

續新古今賀

花邊

同

漢語早當田云

白ゆのゆふり志てく排まうう卯月小白ふ花うまの甲

前大納言俊光

憚園

漢興

八卷中抄并宗世国分勅葉名所抄漢編上等當田云

後拾遺卷一

ちくらのや力いそ人光を懐乃定うー涙もとゆきさりる

淡人不知

同雜五

やすうててまひ互けー系汎ふるまきるゆとくくろこれ笑

原実方

拾遺神樂

新崎

筑前

く代あり鐘所う人ひ新崎の松のらとせ乃一はく神を

重之

後拾遺雜五

それうその人も浦りー新崎に松のらうまれと知らぬ

中村尼

續古今神祈

ちくらのや力いそ人光を懐乃定うー涙もとゆきさりる

法印行清

川雅賀

のらうのうそ子年れ教もそひゆは二度うのれ新崎に松

唐資王

新千載旂

三とよしはくーみ立留里うさ度空てーをこあきの松

石原頼氏

新拾遺神祈

迄んてくく代るゆはをこ松乃まじ乃松も排さひまら

按察使孫朝

博多

同

はくーよりけならんをそひゆは二度うのれ新崎に松

後拾遺雜五

館乃重乃排のーろくゆりゆりて

をけきて我力よ分や並つん花うりされよせううらふ

大貳高遠

速日

峯

日向

續千載神祈

のらうのうそ子年れ教もそひゆは二度うのれ新崎に松

法皇御製

續後撰夏

西河

山城

川も西乃川きよは流れてん岩す波も林也遊さよ

俊成

亭子院西川へおちるしりり日江松老とりあ

るりと魁として

徳古今雜中

江ふ流く年をふりつ松ふれとつる流りききふやみふ

茶誥
伊衛

同

同

新撰古今習

山川のへ江れ松もたれらつとゆふさゆ事乃事やくをすし

坂上
是則

唯宗
光吉

丹生

河原川

大和

玉葉夏

仙人れとつぬまきし人流れや丹生の河原のみりる乃江

後鳥羽
院三内

續後拾遺 卷二

手あふたらしもあふ急勢もや丹生の河丹のれ流り

順那長

新千載卷二

同

つふせしよわれ川はなだちのちとぬ舟乃を名流りし
源兼康

同雑中

しよんれんよ流きてふふれ川いとを無人と船をぬ
不知人

川上れふの片拙人ひきよみりつるまよと控ぬりしひ
大納言 師賢

湖海

進江

千載卷四

新古今秋上

つり神代溪や湖の海りしつるを人もを思ふめふれ
上西門 院兵未

新勅撰春上

小川の海や月乃芝乃うらろて波乃花おも秋もみしつる
家隆

續後撰秋中

湖の海や霞れをよみく舟のたふもまれ氣をひらり
式子内 親王

新勅撰春上

湖の海や霞てまれ春の日はつるおもをしきこの長橋
後京極 親政前 大政守

玉葉秋下

湖の海や秋れよ波れ登小船月小のりてを浦にさふら
為家

續千載秋下

風つる湖の水海をよきて月つげまより沖津し海山
前白 太政守

同

りく波や湖てる登れぬまうし海をくうさぬま
為氏

同雑上

小川の海や汀のちを群立てぬらぬ波みひりしひ
龜山院

愛後拾遺春上

湖の海や水とまうしきこの打おの流し春風う吹
源兼氏

凡雅雑上

くく波や湖無うしの杖周よきまをきて月うあやけ
為親

同雑中

湖れ海や霞てまき物明より方みしぬあ乃つりあ流
前中内 言有光

新千載春上

まかてるるやまの浦り波春うけてりく波をくを
推中内 言有光

新拾遺冬

よかの海やひきの山内あゆのまより氷るまのれ月
僧正 藤能

新後拾遺春上

湖の海やまふより春小のよ板れ山を霞て浦り波うかく
定家

同秋下

月つりまよりかてる浦の林なぬゆやくま乃煙ふあ
為家

同

山乃名をりふえつる月新れ小かてる海り鏡るまより
前白 近世

新後古今秋上

さし波や志の浦は海をみりてりまをぬれりけり
後淡 院

同秋下

志うのうも湖照沖を尋こめて秋も秋海乃乃多の月後鳥羽院

二宮

同

日り乃社より暮りける新乃中より二宮と

新古今神祇

屋月くくれけうわきよ曇りきり此きき春よまめとも藤田

新右卿

同

又保二年大嘗會徳元方己日の系入道江園新右卿

新十載賀

おふくまきとれりられ新右此里をふきよひより前大納言俊光

鎌浦

出

八雲山抄并勅撰各所抄當国裁之原編志之国云々

後拾遺雜四

名よき錦乃浦をよきまにけり百命

二万郷

備中

八雲山抄并藻瑞草當国云々

後冷泉院の御時大嘗會之基方備中郡二万郷乃方

山潤物運よせりせりまにけりよの思人致すひにけり原家

堀河

山城

詞花雜下

水上此のめりてけりもあふふさひ隠れ物しものあ好赤

細江

指津

同雜上

佐右の細江よきやれとつし保にけぬ人をり相模

堀江

同

古今恋四

堀江漕棚より小舟ゆりたり人よやらひわさるん河原左大臣

後撰冬

浦島川堀江に浮てる鴨のこゝみのあふふわぬり後人

同恋一

恋し思ふささるるは津國の堀江思よめれん定文

拾遺延四

は過たけり江に保く思ふ我も歌後乃たふみと後人

後拾遺別

余りよき今ぬりあは保の歌後堀江にけり大江赤言

同旅

詞花夏

續古今雜下

續拾遺抄

續千載雜上

續後拾遺夏

同恋二

同恋四

新後拾遺春下

同恋一

新續古今夏

包つてお成海の中物を弄る小舟は此程を總手ゆりぬよ
源原 田行

みりぬ小舟は此程のこをゆりぬみりぬも乃まき成らん
源忠季

あそびては此程はあくなりぬ松浦舟握るさしをれぬも
人丸

所舟掃りぬは此程ふとくあれぬとくつら月うらやげさ
平政村

浜江は玉玉のまじりて大志の所船よりとくひて三き
儒丘 大臣

とくひては此程はあがりぬとくひては此程はあがりぬ
定家

わの志を新波掃江乃舟の海の水をれての幸をゆりぬ
藤 某

今そとやゆりぬ江の小舟掃りぬれ同じ人にもみしぬ中舟
護守 国夏

か里江漕憲は小舟ゆりぬ物もまじりぬとくひては此程は
定家

舟振るふ小舟ゆりぬの終をれぬとくひては此程はあがりぬ
松茂太 政大臣

恙光が里舟の波のゆりぬとくひては此程はあがりぬ
前掲政 左大臣

堀兼井

武蔵

千載尺数

成蔵が此程の舟をゆりぬとくひては此程はあがりぬ
俊成

細谷川

備中

夏大方のまじり

新千載別

コリコリ細ふくまひぬ中山老よまきる細谷川はまじりぬ
三善 資理

發心門

紀伊

總勢は發心門の王子とて

うれもも津乃ちうひ成る人として心をもあす門ふへなる
權中納 言辨房

千載神哉

十津
 山乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は

十津
 山乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は
 松乃松は

古今夏

帝盤

山社里

山城

同秋下

又拾遺秋

同賀

同恋一

拾遺秋

同恋一

金葉春

新古今春上

同秋上

同冬

おのひつりぬとたの山に非るく紅乃かり共なく

能人 不知

松をぬえんの山にふく風の音や杖や雪はくふ

能人 ちり

秋くんとえもろくぬとまを山をぬれ松をぬる

大中臣 能宣

思はるとさくの山の志つた云ゆしうのまをさゆ

能人 不知

る葉をぬえんの山に松をぬれ杖をぬる

能宣

逢事とつへをうてさいしんとたの山にまつ苦

能人 不知

物まことさ遷りるその氣をよやれその山をまをひら

少将公 能人

希盤山乃松はしき毒の味ぬこりりり馬雨うゆ

攝政大臣 能人

秋くまをえんの山に松はも綴れ計よあそりしけり

和泉 能人

明る乃松はしき山城れれんの社乃松はれれ

能人 法師

同雑中

ふはふし〜ぬえいこの山里を道人も人もあふむきの

新勅撰恋一

まふれとまじもかしのぬ我意やえいこの山乃町ぬ成らん

同雑四

吹初れ音ふりのれ山成りえいこの杜乃杖のまつう後

同

山城のえいこの杜れ又町ぬ深な見どりよのえうまひる

同

下草もりのてりえれ〜れう〜深なとここの杜乃帯よ

優後撰

吹えれ風うらうらとまを山新ぬのろ〜冬もみ〜林と

同恋一

下みり〜ふひ乃せまを山つふ町ぬ〜つろみおんし

同

思こもこふせ志し山城れとふその森れ伊う〜みし神を

優古今秋下

秋のつろを〜ふ弱みんとまを山町ぬ〜おも深〜し思て

同恋一

又よおぬ思の〜と〜とまを山城又町雨をぬか〜ひもひ

同恋二

つりまるとまを乃杜乃ぬ志〜縄鞆ぬえみ〜つ〜ふ〜え

同雑上

流りのぬとれ〜の山れ奈〜〜ふ極成と〜〜〜白雲

優拾遺夏

町きあり〜〜りけせひい〜〜れ〜の杜れ〜ぬの〜

同恋二

我神の候乃つろれ奈〜〜と〜れ〜の杜も〜やうめ〜

新後撰夏

山城乃〜れ〜の杜を名乃〜〜して下草煮〜夏を〜ん〜つ〜

同賀

平時範の〜れ〜の山庄〜て喜能祝〜云事〜懐れ

同賀

うらうら〜美代白を山城も〜れ〜の音れ〜〜〜

王車秋七

と〜も〜ひ〜山ち〜杖れ〜外〜り〜し〜詠〜ひ〜の〜ま〜を〜ゆ〜と〜廉乃〜

同秋下

深〜りの〜ら〜れ〜の杜の〜接〜り〜月〜よう〜杖れ〜又〜も〜み〜し〜れ

優十載秋下

秋〜う〜こ〜も〜わ〜の〜ぬ〜〜れ〜の〜甲〜人〜を〜〜〜よ〜ま〜よ〜や〜長〜う〜つ〜ひ

同雑林

〜え〜の〜山〜〜〜〜〜た〜て〜る〜白〜む〜誌

優後拾遺夏

初声も都〜に〜つ〜う〜け〜邦〜云〜〜れ〜の〜の〜りの〜松〜を〜ゆ〜り〜よ〜さ

同雑中

〜〜〜〜〜

在原元方

清浦

内大臣

僧正

行意

寂良法師

内大臣

内大臣

法印

土内門

院小卒

相

後鳥羽院

衣笠前内大臣

中務

前左

大臣

侍從

雅有

順徳院

菅原

赤湯

除越前

前左

忠定

法眼

兼譽

淡人

不短

家隆

同冬

故里のまじりけし祿に山町雨後日冬をまじりける
前巻註 雅有

同夏傷

おととまの山の火を乃憲ふりて世よ
高原 爲氏

同卷三

とまを山りし祿にけし祿にけし祿にけし祿にけし
淡人 不知

又なくをりてりうとまの山里はゆりり三月

つりお際ハ仲正りりてよけりけりきる

同難下

春はてもとまれりけり山里を茂咲るしと何也入りん
寂念 法師

同冬

故世ふけり人もおれ山や乃花りへうとてぬとと
源仲正 能宣

新拾遺秋下

ふれほてまーれりんとまを山れく乃岩やけまのの月
道母

同

愁りまれまを乃社ハ村のむりまれおふけをみぬ
余出可 隆光

新漬古今夏

袖りりまれまを乃社ハ村のむりまれおふけをみぬ
定家

同

夏をてまを乃社ハ村のむりまれおふけをみぬ
前大納言 爲秀

同秋下

おるまを乃社ハ村のむりまれおふけをみぬ
比賣之

同恋五

つれまを乃社ハ村のむりまれおふけをみぬ
素還 法師

鳥羽

田里山

同

古今恋四

津路れ極は思ふ山城れとまみりひみん事なり
後人 不知

詞花秋

山城れ鳥羽田乃而城をばとまのりおりさそ秋風ハ吹
芳林 好忠

新古今秋下

大江山明とぬく月乃新うして鳥羽田乃而に落れ
慈田

新勅撰恋五

津路のまのたまう山城の回ぬつりし力おり
之内

續後撰秋下

おのりまを乃社ハ村のむりまれおふけをみぬ
後鳥羽院

徳百令秋上

曾代ふも久くるやぬ山城れともいづみんは乃ふの月 大皇

同卷二

思ふ事いしてやこも山城乃ともい若き力もや成るん 元真

同卷三

心とりのよおらん亦も白鳥れとも山松乃言々のさう時 定太

新修撰質

久しうれるひく猶衆れ末迄も吾母田れ而の世も乃杖風 正三位

鏡千載身

み液ぞし鳥羽山を田乃松迄小こころりやうをそを果る 法宗

續後拾遺身

時さぬとなく町香うら羽吹吾母田の果満今やとくらん 津守

同秋下

衣うつとも田乃里の縮ひうねきふるうぬ杖乃山う後 前大納言

爪雅夏

留蒲草門人もなり山城のこくに返うすありぬれより 前大納言

同秋中

何となく物長しくそみしつうふとき田れ而の杖の夕暮 西行

同

かこひえとも田の面れ杖風よ玉ゆらやせこらむの縮妻 後鳥羽院

同雜上

うすきすよ春せもやそ白鳥のとも山松よりるをうらつ 大江頼重

新谷遺秋下

あるく浅く秋月をうこもえてとも田乃香よ芽換好ゆれ 定赤門院

同

白鳥乃吾母田乃が首を吹立てりういなき乃あえ乃山風 中園入道

同長傷

うらむのうかやあうて山城のとも中も志をぬきさうり 信実

同雜上

泳きよのとも田れ而乃廉れ祿をうらふとく杖の山風 礼部

新巻古今夏

白雨乃かうこれ言を吹風おとも田れ果満末ゆしく下 源宗隆

同秋下

夕日さす秋代山りと芳晴て鳥羽田のひるもあう礼致 源宗隆

同

大井川らぬ衆にの理まてとなせの遊を言のさうす 大長

同

砂一也せや方乃衆ハらりてくとなせう杖乃ぬえ 春宮大夫

同

いっふして忠言もみしぬ夕暮よ下歌漸れ後わらてふ 前茶詩

千載秋下

大井川となせの遊よをそあてまくと人よのそを 空仁法師

同雜中

大井川となせの遊よをそあてまくと人よのそを 空仁法師

戸野瀬

庵川

同

葛野郡

大中臣

大長

春宮大夫

前茶詩

空仁法師

空仁法師

新勅撰賀

大井川ゆきを流すの流してとなせれ水もきふう流ゆる

大臣

同正三

となせ川岩まふくくじ後土やぬみかれてもくれを待た

俊成

後撰集秋下

秋深尼をかきよたさつらあつ名ふ互山のあつてやたり

有家

漫古今冬

となせ川言らん流ときつれとくれの葉は流ゆそまろ

振川左大臣

同

風吹山れのほこれ葉もくとま露の流るれとてう身

大納言

後拾遺秋下

となせ川葉をころろちうらみもよときぬ水ふ秋うきり

入道二品親王

新後撰卷三

となせ川五子後土のこれ連揮うてけりうきうゆる

源兼

玉葉冬

となせ川後土錦を大井川後よほめれ西のいなるまかり

俊成

後十載秋下

となせ川むらぬせの月とみてむらねにうらりてそわら

定家

後拾遺合遺冬

うらりね下をすお露をうらね掉ゆもほほりく明るまも

後京授

同秋下

となせ川小倉北山の町あふも露ぬすお露の流のまろ

久朝親王

新勅撰賀

となせ河山とせ川の葉をい深て流らぬ流る

三司

同

となせ河葉よむせし流つ流る中なるうらりてそまかり

源義持

鳥部

山野

同

拾遺夏傷

となせ山若うと煙れもくくさきうらりくぬし我とこころ

後人不知

後拾遺夏傷

となせ山思やれうらり月とれ独や毒れ志ころり

赤橋忠金

同

となせ山思やれうらり月とれ独や毒れ志ころり

小侍従

詞花雜下

思ひうらり子病うらりとも香へ山とては煙もみも子成みさ

田舎院

十載夏傷

となせ山思やれうらり月とれ独や毒れ志ころり

成龍

同雜中

となせ山思やれうらり月とれ独や毒れ志ころり

大江公景

同尺歌

となせ山思やれうらり月とれ独や毒れ志ころり

寂然

新勅撰卷三

となせ山思やれうらり月とれ独や毒れ志ころり

慈田

同

鳥を山今我も煙土のりとりひてりりの人もついで
後徳院

鳥を山あつた思ひに忘る程月日をたのたつ見えたり
石原

鳥を山あつた思ひに忘る程月日をたのたつ見えたり
典侍
光宗

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
求福門
内侍

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
俊成

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
式乾門
内侍

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
敦原
隆祐

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
侍智門
内侍

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
後京控
大政守

鳥へ山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
僧正
宋録

泊瀬川

六和 城上郡

鳥を山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
順徳院

鳥を山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
権中納言
言公権

鳥を山あつた乃末もらんなる村くすくすをたれ字を
鎌倉不
大臣

飛火

野原

同

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
不
知

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
同

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
入道
務政

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
通
伝

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
前奉
教長

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
前左
大臣

春日のく飛火のせ守せくみよ今つりきてあか揃てん
為家

後徳院

石原

典侍
光宗

求福門
内侍

俊成

式乾門
内侍

敦原
隆祐

侍智門
内侍

後京控
大政守

僧正
宋録

順徳院

権中納言
言公権

鎌倉不
大臣

古今春

後群
二

後裕
遺
山

千載
春上

新古今
春上

後古今
春上

同

徳拾遺香上

玉葉正二

徳拾遺拾遺標上

川雅夏

五粒のく死火に望むとこれりへ處よぬやう馬乃的の
まじの雪乃下葉人志事とくふひの力やや哉うさうはる
けり當れ母のひの山を物をもやふむの原小雛子啼るる
その望ちのりしみ泣きとてとふひもよこの苦るるりり
定家
女女女王
五原
降信
寂蓮
修作

富緒川

同 八雲抄 宗此因分勅撰各所抄
藻瑞末等當国云々

拾遺表傷

後拾遺補四

金葉賀

新十載尺數

つれづれやとく小川乃後きよう扱大志を物志とこれぬ
美代とすめり船并乃名やゆい富小川乃るりれ成り
あふと富緒河の水流てりとせとふこと縁一とそこふ
つれづれや富緒川の流るる縁ぬははけりめるるとこれ
縁とすま後のつれづれのすまをく富緒河乃流るるりり
権僧正
良聖
龜山院
源忠季
弁乳母
竹胤人
達ノ大

十市 村野山池同

拾遺雜類

新古今夏

同秋下

續古今尺數

玉葉夏

同

同

同秋下

續十載尺

風雅中

同秋下

くれそとくめて禮ん逢事のら紙らの雪は燈うらと志哉
と衣ちあも白ぬすうと久しとれを乃明く山を明くれり
文小りり山れいとく月とそそと紙らの里に衣うらと志
のそふまは十市れ望よれとろをそふ十余の年足にきり
十市より吹く紙乃白ひうら紙ら花れふれくやうれ
白ぬれ十市とこれる乃トふありこぬぬうよ和よかしの
まゝらと紙らのそられ白ぬ小山のえとそそと照をりれ書
へりこの月乃うらとくひとくまてとそらの村を打也
あふて着うらと衣うけりも里ハとそらの村人乃ゆあき
穢吹とそらのひりれ申あきうら紙わらう一人ゆらるる
まのりりへ日れ紙よ敷とそそとそらのそそを後るりり
一条
後政
俊根
式子内
親王
崇徳院
都芳門
院安藝
九条左
大臣女
松原
定成
入道前
左政大
從三位
宣子
後伏見
天白左
大臣

同

新後拾遺 卷四

新續古今類

馬乃鳴とそらの山を夕日とて町を町る秋のゆくも
ふさふさや十市乃地此とくわ繩くれいとらぬくよきつ
い里をわくぬもすくく過て十市乃くゆふたらのを

源安 門院 為家 等持院 左大 臣

あき等

同

漢古今秋下

玉葉春下

續十載雜上

瓜菲雜上

うきやとくくのる此秋此月西小成まを新とよきみ連
ふさふさよ名浦乃此も久くれぬとられちん入相乃や
うりよき過をみしすううきやを等凡寺此雪此ゆ初の
ゆを山ひりうみ月を明こぬとてとよら此鐘此なる交乃

源具氏 八首前 太政大 臣 淡人 不知 前大納 言者

富海

拾津

八雲抄抄 藤極草當目 託淡路

金葉冬

同春下

ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる
ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる
ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる

神祇伯 赤原 仲夏

玉葉旅

漢一載旅

新拾遺旅

ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる
ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる
ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる

正三位 李經 赤人 前左 大臣 人丸

遠里小野

同

新勅撰春上

續後撰秋上

續古今秋下

同

續拾遺秋下

同雜春

ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる
ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる
ゆきやとやううの海成あれたる又波千鳥立おなくる

覺延 法師 後徳大 寺左大 臣 源具氏 中務 卿王 國平 彦原 世載

新後撰卷下

こわくこわくし松のましまし小窓つとを里をばさ乃一川を
院内連

同貫

えにりりちるみるつまり末をを里ををの松をまの流
俊成女

履十載夏

ここの江の松をひさしを時島を里小野のつとをより
式乾門
院内連

同冬

秋乃えととを里をれはあのをきてはうのこをれまの乃を
院三位
院内連

新十載秋下

藤井林をくとを里をばささうの袖みうつとて破れ雁の
院三位
院内連

同

そこのをのまをくとをばはなをとしてはれをのりうをまの
院三位
院内連

新撰古今秋下

そこのりてを里をの流をりのふさういさうのいさ
院三位
院内連

履十載神祇

皇のあをれんれやれまことのりはうへて行く豊乃五人
院三位
院内連

履後拾遺神祇

太神まみ後てまのりりる百首乃舞の中より
院三位
院内連

の海くもりのあはをのえ板なをまひをまみあらん
院三位
院内連

帝盤橋

道江

一説奥羽

金葉春

えのりぬ松ふとをて東流れとれこの橋よりうたは
院三位
院内連

島嶽山

同

あえ乃みのこのあふれう松のりり入る
院三位
院内連

古今滅考

犬上乃とあのみ山りる名を川りさとをよわのふりうを
院三位
院内連

金葉秋

妻らふれ藤う鳴りる松の末の山う後がうやまむる
院三位
院内連

新古今秋下

あつらうれ松乃松ふとをてうつと鳴るつとあのみ山
院三位
院内連

同前

ゆらぬふれ松乃松ふとをてうつと鳴るつとあのみ山
院三位
院内連

履後撰卷三

一ととるれ松乃松ふとをてうつと鳴るつとあのみ山
院三位
院内連

履十古今恋五

松乃松ふとをてうつと鳴るつとあのみ山
院三位
院内連

履後撰卷五

あゆみ小松乃山りるもつと鳴るつとあのみ山
院三位
院内連

家隆
院三位
院内連

新後撰卷二

つこつこよるり泣いては又あふせもさる床のし川

安布門院甲斐

後撰撰以下

杖ふる床れ山はあふりて月けきよよのまろく

兼鎮法親王

同冬

いりや川今や氷もーさる人の床れ山はさくぬくるや

平時元

同秋

階人の床れ山り波ゆめた是てまろくろり河さるの月

中原師貞

同

毎遠只ひとりり思り海の満くりにさびさとあのか山

景久

同卷二

近江まろくさ成床れ山とこころんうと海くりり

盛明親王

後撰右遺秋上

杖を揺るふうあふれんあふりふと穂のとあのか山

前大僧正実超

新十載

吹くふあのか山り波さひりあふ家よりすー杖のよの月

定家

同卷二

たのまーよな乃さるのとあのか山いりやとれぬ契也や

源友経

同

粗のろととれ山はあぬもあしてむりさ振る波りれ

友原貞貞

新拾遺卷一

ひりやう揺りらりれ獲るやむりーき床の山と成る

推し借部買置

新後古今卷三

あいらふまのさるうさ依ぬさひつと海のとこ乃山

法印

同雜上

のほくすとひりーいりやあふれを待よ又の床れ山

從七位

新勅撰神祇

あいらの神を座れぬと川の石を踏きりさるる

攝津遠

利根川

上野

利根郡

千載卷二

みられくのりひの橋よれ理れ終すも人よ伊ひ渡り

前茶膳

新拾遺雜中

東らのりひの橋りさるーを思ひとてや世成後れは

在原宗基

新後拾遺雜上

さるる十総れ橋り引渡りの名を世とてやわららん

攝津村

新後古今卷五

をれけらるるれとにさふ陰奥の十総れ橋乃中そ終りま

民部卿

十尋

浦

同

金葉冬

新古今格

水鳥のつらられ花原しほへさしあしとわん葉あも
みへんもこわれ浦はまきあまつれなく花は乃の月
橋為仲

新納

備後

新勅撰注四

新納の残れむろの本みる毎に逢かすしとを思らまふか
大納言
藤へ

九月十三夜つゆく鴻を海つるしりく備後のとも

とつととらうて海を月とりあ事と

凡雅振

あさらよの月を獨り海つる思ふぬ残れは海くし
石原
公重

多浦

里宮

長門

後拾遺撰諸

白波乃互るすよ長門なり豊浦の里のとよられよ
能目
信公

新勅撰注

地を豊浦の文みは初て世とををれと水よりくす
信公

泊磯

讃波

玉葉振

松の浦の泊乃磯とまき浦とを中もこつとをくはれ
徒三位
行能

床浦

未勅

後拾遺撰間

やくととのと枕の上み鑑んて煙くしきぬとあの浦の
相模
定家

後後撰恋一

我神よむるすま波そし初つ舞りもあぬ床の
定家

後古今格七

さか浦れとあの浦は吹やう霞の神みりり
石原
光俊

同秋上

しきたるれ床乃ううの波枕ややれ月れうふね成
藤大僧
都定回

同卷二

涙れをを流りし舟もしぬへしめも浮沈むとあの浦は
前大僧
寺入道

新千載冬

ゆふ交てぬの千鳥れ群をマらうむむ床れ浦ちりらん
前大僧
正賢俊

同卷

うまみする床れ浦は名交てぬ乃さくう月を明さかく
後十内
懐子内

同

後録する床の浦はさびさるを教にりもあまうやくり
治アツ
二品法

新拾遺格

ゆらわれぬ床れ浦は力ふしみてはうま互波乃を
親王守
寛

同卷二

同卷二

新編古今秋上

同

うさ舟乃たよわいななくて乞り我力らうりかく床の浦波 為素女
またへの床れ浦まの登小舟浮祿定ぬ月やみららし 源頼を
登人のつらよそなくて澄月のつひのこややれ床れ浦波 法印
秋乃我も月もや拂かりつこと忘りしうしれ床乃浦波 後小松院

玉葉卷三

床海

同

とあの浦の我尼あそ波うふとても打りら中小舟小夏人 為家

新編古今秋下

鳥屋野

同

小舟此とわがあうり中と分て全れ速とゆり秋れ揚人 順徳院

同冬

打なひく末とつひてけり登のとわが浅ち書あふるる 平常乃

類字名所和歌集第一巻

中井子
中井子

110X
421
7